



MAFF 農林水産省

令和7年度
内定者ガイドブック

はじめに

このたびは、農林水産省の内定者ガイドブックをご覧いただき、ありがとうございます。国家公務員や農林水産省の仕事に関心を持っていただけることを、とても嬉しく思っています。

本冊子は、令和7年度内定者が自身の経験をもとに、進路選択や公務員試験、官庁訪問に関する情報や体験談をまとめたものです。

就職活動は、人生の大きな分岐点のひとつです。数ある選択肢の中から進む道を決めるのは、期待と同時に、不安や迷いもつきものだと思います。

私たちがどのように考え、悩み、そして農林水産省という進路を選ぶに至ったのかを知っていただくことで、皆さまの進路選択の一助となれば幸いです。

令和7年度
農林水産省 総合職事務系 内定者一同

※本冊子は内定者が自主的に作成したものであり、記載内容は農林水産省としての公式見解を示すものではありません。

ビジョン・ステートメント

Vision Statement

わたしたち農林水産省は、
生命を支える「食」と
安心して暮らせる「環境」を
未来の子どもたちに継承していくことを
使命として、
常に国民の期待を正面から受け止め
時代の変化を見通して政策を提案し、
その実現に向けて全力で行動します。

目次

農林水産省 内定者ガイドブック



01 試験対策・・・p5

1-1 内定者の試験状況

1-2 教養区分概要・対策

└コラム：教養区分対策 勉強スケジュール

└コラム：2度の教養区分受験

1-3 春試験の区分（春の教養区分（新設）を除く）概要・対策

└コラム：経済区分対策 勉強スケジュール

02 官庁訪問・・・p22

2-1 官庁訪問 基本情報

2-2 官庁訪問対策

2-3 官庁訪問当日の過ごし方

2-4 最後の決め手！農林水産省を選んだ理由

2-5 官庁訪問エピソード集

└コラム：事務系と技術系

└コラム：2度の官庁訪問

03 就活全般・・・p44

3-1 民間との併願

3-2 他の公務員就活との併願

3-3 大学院併願

3-4 コラム：就活体験記集

04 地方出身者特集・・・p59

4-1 地方出身者 基本情報

4-2 官庁訪問 実態調査

4-3 地方出身者の強み

05 内定者紹介・・・p64

5-1 内定者自己紹介＆メッセージ

1 試験対策

1-1 内定者の試験状況・・・p6

1-2 教養区分・・・p7

└─コラム：教養区分対策 勉強スケジュール

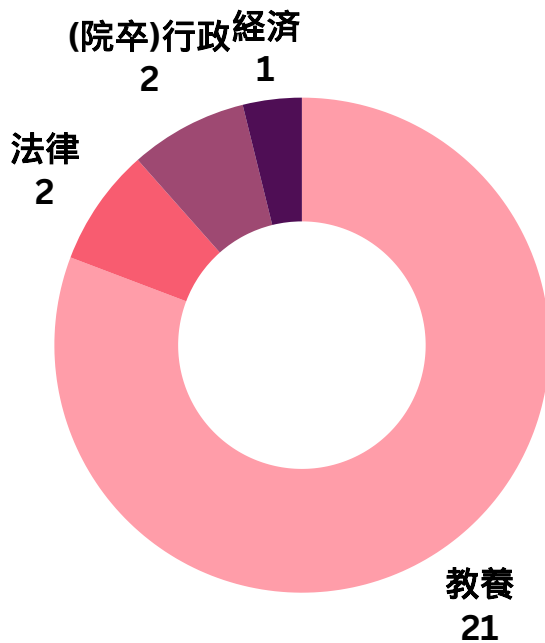
└─コラム：2度の教養区分受験

1-3 春試験の区分(春の教養区分(新設)を除く)
・・・p18

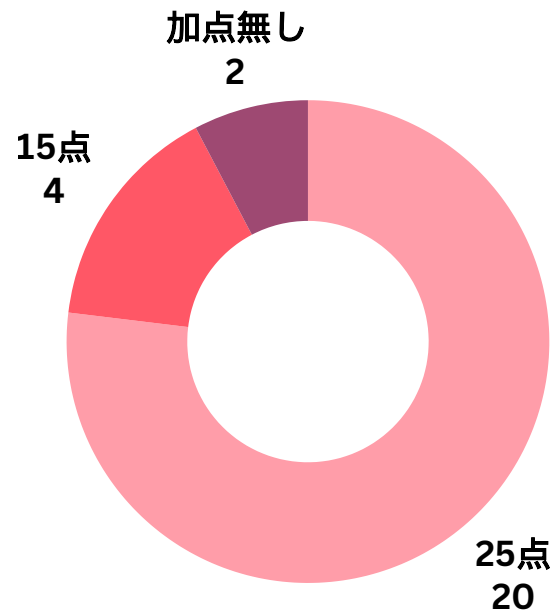
└─コラム：経済区分対策 勉強スケジュール

1-1◆内定者の試験状況

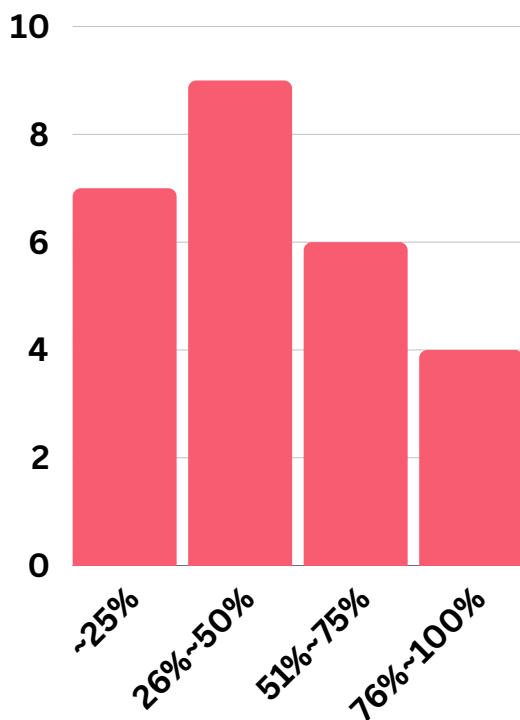
【試験区分】



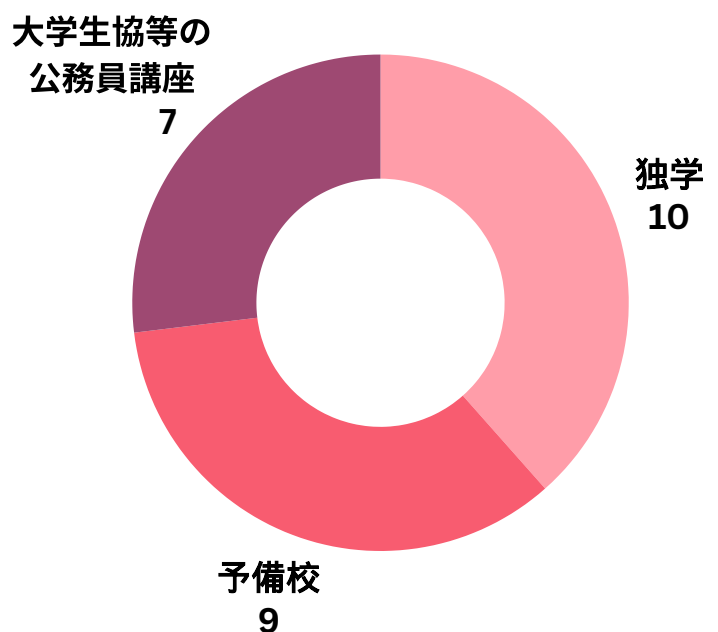
【英語加点】



【席次】



【試験対策法】



【POINT!!】

- 外部英語試験による加点は積極的に活用しましょう！TOEIC等のスコアは民間就活にも活用できます。
- 席次について、高いに越したことはありませんが、重要なのは順位そのものよりも、どれだけその省庁や政策のことを考えているかだと思います！
- 試験対策法はそれぞれにメリットやデメリットがあるため、自分に合った対策を選ぶのが大切です。

1-2 教養区分

◆教養区分試験とは

- 総合職試験「教養区分」は、特定の専攻分野にとらわれず、幅広い教養と企画立案に必要な基礎的能力を重視する試験区分です。大学2年生（試験年度の4月1日に19歳を迎えている方）から受験が可能であり、進路をまだ決め切れていない学生や、民間企業との併願を考える学生にも挑戦しやすい形式になっています。
- 2026年度からは、これまで秋のみ実施された本試験が春にも実施される予定です。
- 春に実施される他の総合職試験区分とは併願できませんが、秋実施の「教養区分」とは併願が可能です。

本誌は2025年度春試験までの試験制度下で受験した内定者の声を反映した内容です。2026年度以降の変更点については、編集時点の公表資料により補足してはいますが、改めて確認することを強くおすすめします。

春と秋の2回開催になると同時に、配点や出題数に変更アリ！

【試験制度の変更について】

※試験情報ならびに後述の官庁訪問の情報については、必ず

☆人事院の採用情報HP（国家公務員試験 採用情報NAVI）

☆志望省庁の公式HP（採用公式ホームページなど）

など確認するとともに、気になる点は問い合わせなどをして解消しておくと思いいます。

		試験科目	現行（～2025年度）	2026年度以降
一次試験		基礎能力試験	配点比率：5／28	配点比率：4／24
		総合論文試験	配点比率：8／28 (1部・2部の2題)	配点比率：6／24 (1題：従来の1部のみ)
二次試験		企画提案試験	配点比率：5／28	配点比率：6／24
		政策課題討議試験	配点比率：4／28	配点比率：4／24
		人物試験	配点比率：6／28	配点比率：4／24

1-2 教養区分

◆教養区分試験とは

【試験内容】 ※詳しくは、国家公務員試験 採用情報NAVIをご確認ください。

基礎能力試験（多肢選択式）

公務員として必要な基礎的な能力に関するマークシート試験

2025年度

- 知能分野 24題（文章理解、判断・数的推理(資料解釈を含む)）
- 知識分野 30題（自然・人文・社会(時事を含む)、情報）

2026年度以降

- 知能分野 30題（文章理解、判断・数的推理(資料解釈を含む)+時事・情報）
- 知識分野 20題（自然・人文・社会 20題）

総合論文試験

政策の企画立案の基礎となる教養・哲学的な考え方に関する総合的な判断力、思考力についての論文試験（2025年度試験では、これに加えて、具体的な政策課題に関する論文試験も出題）

企画提案試験

企画力、建設的な思考力や説明力などについてのプレゼン形式の試験。事前に提示されたテーマに沿って課題が出題され、政策案をレジュメに書き起こす。それをもとに試験官に対して5分でプレゼンをし、20分間の質疑応答に移る。

政策課題討議試験

課題に対する集団討論を通して、プレゼン能力やコミュニケーション能力を評価する試験。いわゆるグループディスカッション。

人物試験

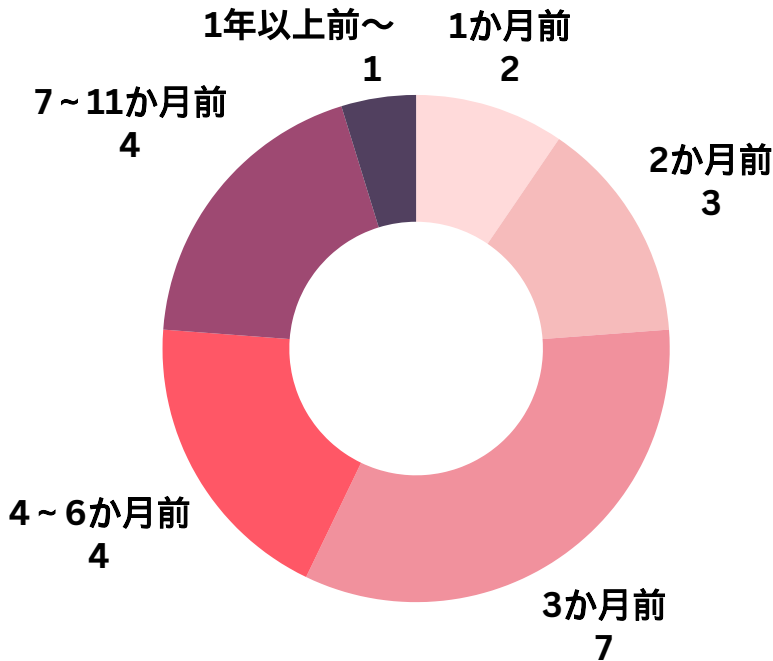
人柄、対人的能力などについての個別面接



1-2 教養区分

◆内定者の対策法

【試験準備 開始時期（一次試験のnヶ月前）】



秋試験を受験する場合、夏休み頃から準備する人が多いようです。一方、就活中の夏休みはインターンなどで忙しくなることも予想されるため、計画的な勉強スケジュールを組む必要があります。

また、「数的処理だけは早めに対策を始めていた」など、自分の苦手分野や出題が多い科目に焦点を絞って勉強を開始していた人もいます。

【基礎能力試験 対策法】

知能分野（数的処理・判断推理・文章理解・資料解釈）

○勉強法

- 過去問を繰り返し解く
- 問題を「できる／できそう／できない」に分類し、「できそう」に重点を置いて反復
- 公務員講座の問題を解く
- 過去問（10年分程度）を時間を測って演習し、本番の時間配分を意識
- 当日は解く順番をあらかじめ決め、得意分野から着手

○使用教材・資料

- 『公務員試験 新スーパー過去問ゼミ』
- 畑中敦子シリーズ（ワニ本）
- 『判断推理 必殺の解法パターン』
- 予備校講義・レジュメ

知識分野（社会科学・人文科学・自然科学・時事・情報）

○勉強法

- 広範囲なため、過去問中心で効率的に学習
- 知らなかった知識はノートやテキストに書き込み、繰り返し暗記
- 高校時代の教科書を活用して基礎を復習
- 時事は参考書＋ニュース・番組で補強
- 苦手科目には深入りせず、数的処理や論文対策を優先

○使用教材・資料

- 『公務員試験 新スーパー過去問ゼミ』
- 『公務員試験 速攻の時事』
- 高校の教科書（物理・化学・歴史など）
- NHK番組（持論公論、視点論点、クロ現）
- 図書館書籍、歴史・社会系ポッドキャスト

1-2 教養区分

◆内定者の対策法

【総合論文試験 対策法】

○勉強法

- ・ 論文の型や構成を学び、出題論点について事前に考えを整理
- ・ 行政課題に関しては「自分の考え」をストックして準備
- ・ 文量が多いため、最後まで書ききる体力と集中力を意識的に養う
- ・ 新聞・白書・行政学や政治学関連の書籍を読み、社会課題への視点を広げる
- ・ 実際の試験時間を想定し、時間を測って演習
- ・ 模範解答・過去問を参考に、論理展開を定着
- ・ 予備校の添削サービスを活用

○使用教材・資料

- ・ 予備校教材・添削サービス（伊藤塾、アガルートなど）
- ・ 『公務員試験 論文・面接で問われる行政課題・政策論のポイント』
- ・ 『論文試験 頻出テーマのまとめ方』
- ・ 『寺本康之の小論文バイブル』シリーズ
- ・ 『公務員試験 速攻の時事』
- ・ 人事院に資料請求した過去問
- ・ 新聞、白書、行政関連書籍

省庁主催の政策シミュレーションは、試験対策にも官庁訪問対策にもなって一石二鳥！

【政策課題討議試験 対策法】

○場慣れ

- ・ 省庁主催の政策ワークショップ・政策シミュレーション参加
- ・ 大学・サークル・生協講座・予備校の模擬試験参加
- ・ 民間就活のグループディスカッション経験も活用

○練習

- ・ 本番形式の練習2～4回（友人・同級生と集まる）
- ・ 過去問・予備校テーマで役割分担を試す（司会・書記・タイムキーパー・発表）
- ・ レジューメ作成を制限時間内で行う練習

○立ち回り

- ・ 前半はアイデア出し、後半はまとめる構成を意識
- ・ 個人発表練習で短時間で意見をまとめ話す
- ・ 詳しくないテーマでは「相槌」「補足」で議論を支える

○心構え

- ・ 出題テーマは予想できないため「議論の型」を身につける
- ・ 完璧な知識より論点整理・建設的議論が評価対象
- ・ 緊張慣れのため複数回の場数を踏む

1-2 教養区分

◆内定者の対策法

【企画提案試験 対策法】

○勉強法・準備

- 資料読み込み
 - 課題図書（白書）を読み込み、要点整理
 - 関連新聞記事・学術書でテーマ背景を理解
 - 過去問・予想問題でテーマを想定し、複数政策案を準備
- アイデア出し・政策立案
 - まずは現実性を考えず自由に案を出し、5W1Hで具体化
 - 主要テーマごとに最低2～3案ストック
 - 「責任の所在」「費用負担」「主体の役割分担」を明確化
- プレゼン資料作成
 - レジューメは箇条書き・図表で視覚的に整理（書類ではなくパワポを意識）
 - 提案理由・課題認識・施策内容・効果・懸念点を簡潔にまとめる
 - 制限時間内で書き起こす練習を繰り返す
- 練習/フィードバック
 - 大学講座、サークル、予備校の模擬試験で練習
 - 友人・先輩と政策案を見せ合い添削・質疑応答
 - 内定者や先生のアドバイスを取り入れて施策をブラッシュアップ
- 本番意識
 - 原稿を丸暗記せず、補足説明を加えて落ち着いて話す
 - 質疑応答では弱点を突かれることを想定して反論を用意

○使用教材・資料

- 課題白書（出題テーマに指定）
- 白書関連新聞記事・学術書
- 過去問（5年分）
- 予備校模擬試験・予想問題
- 公務員試験対策サークル・大学対策会資料
- 政策関連参考書・行政学入門書

内定者の声

- 終わってみれば、どんな施策を考えるかより、面接官の質問に対していかに考えをしっかりと打ち返せるかが重要だと思った。
- 予想と違う問題が出て焦ったが、意外とそれまで考えていた施策を応用できた。
- 同じ試験を受ける人同士で政策案を持ち寄り、発表と質疑応答の練習をしたため、想定問答を用意できた。
- 施策に関して、何らかの制度を提案するに当たり、その実行主体や責任の所在を突き詰めておくべきだと思った（政府なのか、民間の事業者なのか、地方公共団体なのか…など）。

1-2 教養区分 概要・対策

◆内定者の対策法

【人物試験（面接）対策法】

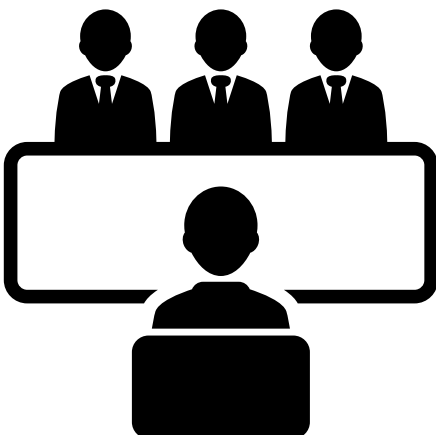
○勉強法・準備

- 面接カード（ES）作成
 - 早めに完成、何度も見直す
 - 家族・友人・先輩・先生・大学キャリアセンター・予備校講師に添削してもらう
 - PDF編集で補足を書き込み、想定問答を整理
 - 頻出質問（志望動機・学生時代頑張ったこと・強み・弱み）を整理
- 模擬面接・対策会
 - 友人・先輩・家族との練習
 - 大学キャリアセンター・生協講座・予備校・学生団体の模擬面接活用
 - 民間就活で場慣れ
 - 早口にならないよう落ち着いて話す

○使用教材・資料

- 『受験ジャーナル特別企画 面接完全攻略ブック』
- 予備校面接対策テキスト・講座
- 志望省庁パンフレット・白書概要版

○内定者の声
面接カードは早いうちから他の人に見てもらい、内容をブラッシュアップしていくべし！！



1-2 コラム

とある内定者の教養区分対策法を、時系列に沿ってご紹介！！

＼内定者インタビュー／

教養区分・勉強スケジュール①

時期	対策内容	就活事情	コメント
3月	公務員講座受講開始 講義動画がアップされるスケジュールに合わせて学習	省庁の説明会等に参加し始める 8月ごろまでは興味ある民間企業にも説明会等に参加	公務員講座自体は2月からスタートしていたが、3月からの受講でも全く問題なし
4月 5月	空きコマや休日を活用して講義動画・問題演習を進める	省庁のインターンに応募	大学で学んでいる分野は問題演習のみにする等、メリハリをつけて学習
6月	総合論文試験対策を始める		
7月			大学の試験勉強を中心としたため、公務員試験対策は隙間時間に講義動画を見進める
8月 9月	たまっていた講義動画を一気に見進める 試験の過去問を解きはじめる 総合論文試験対策として時間を計りながら書く / 様々なテーマについての考えや文章構成を大まかに考える 直前に時事対策	省庁のインターンに参加 民間就活と迷っていたが、この時期に公務員に進路を定める 9/29一次試験受験	省庁のインターンは非常におすすめ！
10月	面接対策を行う 企画提案試験の資料を読み、プレゼンの用意を行う		大学も始まり忙しいと思うが、省庁のイベントは、知識を得たり、周囲の学生から刺激をもらえたりするのでおすすめ！
11月	企画提案試験のプレゼンを家族に見てもらう 学内の対策コミュニティで政策課題討議試験の練習	11/16・17二次試験受験	

具体的な試験対策

【一次試験】

○基礎能力試験

- ・ 公務員講座の講義動画を受講し、問題演習を行った(大学2年の3月から)
- ・ 特に演習が必要と感じる科目は重点的に問題演習を行った(数的処理など)
- ・ 数的処理、憲法・民法等は早いうちから講義を受講していたが、それ以外の科目は8月から本腰を入れて取り組んだ
- ・ 時事については、直前期に対策本を購入して2～3周した

○総合論文試験

- ・ 公務員講座の講義動画を受講し、実際に自分でも書いてみた
- ・ 講義内で出題されそうなテーマをまとめてくださったので、それらについて自分なりの考えを用意し、大まかな文章構成を考えた
- ・ 小論文の対策テキストを購入し、内容や文章構成を確認した
- ・ 試験直前期には、実際に時間を計りながら文章をまとめる練習をした

【二次試験】

○企画提案試験

- ・ 事前に示される資料と、その周辺の資料を読み、出題がありそうな範囲をいくつかに絞り込んだうえで、それぞれに対して施策を考えた
- ・ 全く対応できない範囲から出題されたということが起きないように、事前に用意した施策は2つ以上の課題に関連したものになるように意識した
- ・ 時間内に発表レジュメを書き上げる練習をした
- ・ 家族に自分のプレゼンを聞いてもらい、フィードバックをもらってブラッシュアップすることを繰り返した
- ・ 公務員講座の対策会に参加し、他の学生のプレゼンを聞いてイメージをつかんだ

○政策課題討議試験

- ・ 学内の対策コミュニティでディスカッション練習を3回ほど行った
- ・ 対策コミュニティ内で、周囲の学生から、レジュメの構成や話し方、聞き方、意見の述べ方等を学んだ
- ・ 小論文対策テキストや、時事対策テキスト、ニュースを読み、様々な社会課題について「知っている」状態にしておく意識をもっていた

○人物試験

- ・ 春ごろから自己分析を進めていた
- ・ 公務員講座内で面接練習を3回ほど行った
- ・ 講座の先生や家族にESを見てもらい、ブラッシュアップをした

1-2 コラム

二人目の合格体験
記！もともと春試験
を受験予定だった方の
エピソードです

教養区分・勉強 スケジュール②

【4月～7月】

生協の公務員講座を受講していたので、開講に合わせて勉強開始。最初は教養区分を受験する気は無く、春試験を見据えて法律や経済に取り組んでいた。

自宅でオンデマンド学習をしていたが、対面で実施される授業をペースメーカーにして、常に8割以上の進捗になるよう意識していた。科目によっては小テストを用意してくれていたのも、それを到達目標にして問題集や用語集を読み込むようにしていた。

<科目>

憲法、行政法、民法、経済原論

【7月末～8月末】

生協の方との面談で、教養区分の受験を決めた。とはいいつつやはり目標は春試験だったので、法律の勉強がメイン。教養対策としては、数的処理のテキストを1週間に1,2章進める程度だった。

【9月～受験直前】

やっと受験日まで時間が無いことに気づき、大急ぎで数的処理のテキストを1周終わらせた。何だかんだ部活や他の予定であまり勉強時間が確保できず、1周したのちは苦手な分野を2,3回見直しただけだった。

【一次試験後～結果発表のあと (10月中旬)】

まさか受かるとは思っていなかったもので、教養区分なんて無かったかのように春試験の対策に戻った。合格発表後も二次試験を受けに行くつもりは無く、生協の方との面談で腹をくるまで春試験の勉強をしていた。

【二次試験受験決意後～二次試験 受験1週間前】

受験を決めてからは、企画提案と人物試験対策ばかりやっていた(英語加点は、高校2年生の時に取得した英検を使ったので、新しく受験しに行ったものは無い)。

この時から受験当日まで、「無音の時間」を意識的に作るようにしていた。具体的には、移動中や家事をする際、音楽を聴いたり動画を観たりしないということ。頭の中がクリアになり、アイデアが浮かびやすくなった。

<内容>

- 企画提案:生協の対面講座、有料のオプションとしてのオンライン講座を通してやり方を学ぶ。また、生協の講座で知り合った他の受験生と図書館で何度か練習会を開き、アイデア出しや発表練習をしていた。
- 人物試験:まず大まかに要素を書き連ね、生協の方に添削していただいた。

【～二次試験受験当日まで】

引き続き「無音の時間」の中で生きながら、頭の中でずっと企画提案のブラッシュアップと自己分析をしていた。

<内容>

- 企画提案:案自体は1週間前には完成していたが、ゼミ(公務員試験とは全く関係ない。個人的にお願いした)や練習会でレジュメ作成から発表まで繰り返し練習し、意見を聞いて完成度を高めていた。
- 政策討議:練習会で2回練習したが、レジュメ作成の練習が不十分だった。
- 人物試験:一人で面接シートを深掘りし、ひたすら想定問答集を作っていた。一度だけ生協の方に面接練習をしていただいた。

秋に開催される教養区分試験は、たとえ不合格でも春試験に再チャレンジできるという利点があります。そのため、当初から春試験も受験することを見こして公務員試験対策をはじめめる人も少なくありません。

学部2年から受験可能かつ、年2回開催される教養区分は、「とりあえず一度受けてみる」というチャレンジ精神が重要なのかもしれませんね…!



1-2 コラム

大学2年生時に教養区分を初受験し、翌年の試験で最終合格に至った方の体験談です！

＼内定者インタビュー／

2度の教養区分 チャレンジ

【体験談】

私は大学2年時と3年時の2度、総合職教養区分試験を受験しました。

2年時は運試しのような感覚で、基礎能力試験の勉強を少しだけ行い受験しました。その結果、かろうじて一次試験は突破できたものの、二次試験で不合格となりました。総合職試験は一次と二次の合計点で合否が決まるため、一次試験に合格しても点数が低ければ不利になります。私の場合は総合論文の出来が振るわず、それが落ちた原因でした。

当時は特に悔しさもありませんでした、3年生になってから後悔することになります。理由は民間就活です。近年、民間就活は早期化し、夏のインターンシップの重要性が高まっています。そうした時期に試験勉強の時間を多く割かれてしまうと、民間就活との両立は困難になります。もし2年時に合格していたなら、私は余裕を持って民間就活に挑み、その経験を踏まえて官庁訪問対策にも十分な時間を割けたはずでした。

もっとも、3年時は真剣に勉強しました。2年時に受験した経験があったおかげで、自分に何が足りないのかが明確になり、対策もしやすくなっていました。その点では、やはり2年時に受けておいたことは大きな意味があったと言えます。

2026年度からは、教養区分試験を19歳の春から受験できるようになります。ぜひ、できるだけ早期に受験し、合格を勝ち取り、その後の就活や官庁訪問に余裕を持って臨んでほしいと思います。私の経験上、民間就活をしっかりと経験している人のほうが、総合職試験にもより落ち着いて対応できていると感じます。

チャンスは一度きりではありません！試験の開催時期と、自身の学生生活や就活のスケジュールとを照らし合わせ、上手く乗り切りましょう！

1-3 春試験の区分(春の教養区分(新設)を除く)

◆春試験の区分(春の教養区分(新設)を除く)について

- 教養区分以外の試験区分は、基礎能力試験、専門試験（多肢選択式と記述式）、政策論文試験（大卒のみ）、政策課題討議（院卒のみ）、人物試験から構成されます。
- 教養区分に比べ、専門的な知識が必要となる試験です。
- 教養区分と同じく、外部英語試験を利用した加点が認められます。

【試験内容】 ※詳しくは、国家公務員試験 採用情報NAVIをご確認ください。

一次試験

基礎能力試験（多肢選択式）

公務員として必要な基礎的な能力に関する、マークシート試験

- 知能分野 24題（文章理解、判断・数的推理(資料解釈を含む)）
- 知識分野 30題（自然・人文・社会に関する時事、情報）

専門試験（多肢選択式）

各試験の内容に応じて必要な専門的知識などについてのマークシート試験
（出題範囲及び出題数は、それぞれの試験区分による）

二次試験

専門試験（記述式）

各試験の内容に応じて必要な専門的知識などについてのマークシート試験
（出題範囲及び出題数は、それぞれの試験区分による）

政策論文試験（※大卒）

政策の企画立案に必要な能力、その他総合的な判断力及び思考力についての論文試験

政策課題討議試験（※院卒）

課題に対する集団討論を通して、プレゼン能力やコミュニケーション能力を評価する試験。いわゆるグループディスカッション。

人物試験

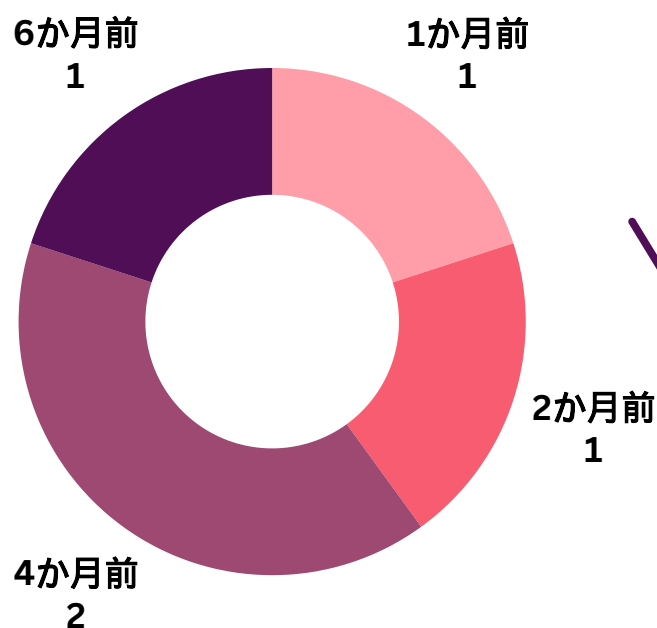
人柄、対人的能力などについての個別面接

1-3 春試験の区分(春の教養区分(新設)を除く)

◆内定者の対策法

ここでは、内定者の受験区分に合わせ、法律・経済・行政（院卒）区分の対策法について紹介します。

【試験準備 開始時期（一次試験のnヶ月前）】



多くの場合、自らの専門に近い区分を選択することになるため、大学で学んできたことがそのまま試験対策に活かすことになります。

また、早いうちから英語加点のためにTOEICの勉強をしていた、という声もありました。

春試験は民間就活も本格化する時期に開催され、官庁訪問までの期間が短いという特徴があります。よって、計画的に勉強スケジュールを組むことが重要となります。

【院卒行政区分 専門科目 対策法】

一次試験（多肢選択式）

○勉強法

- テキストを読む
- 問題集を解く

○使用教材

- 『過去問解きまくり』
- 『公務員試験 新スーパー過去問ゼミ』（以下、『スー過去』）
- 『公務員になるための行政法』
- 生協の憲法テキスト
- 『ビジュアル国際法』
- 有斐閣の『政治学』

二次試験（記述式）

○勉強法

- テキストを数冊読む
- メルカリで購入したTAC模擬問題で演習

○使用教材

- 『公共政策の基礎』
- 『基礎コース公共経済学』 など



1-3 春試験の区分(春の教養区分(新設)を除く)

◆内定者の対策法

【法律区分 専門科目 対策法】

一次試験（多肢選択式）

○憲法・行政法・民法（必須）

- 問題集で重要ポイントを整理
- 基本問題を優先、3〜4周し青ペンで間違えた問題を復習
- 公務員講座の問題集で演習、疑問点は講義レジュメや教科書で確認

○刑法・労働法・商法・財政制度・財政事情（選択）

- 公務員講座テキストを1周、間違えた問題のみ解き直し
- 出題数が少ないため深追いせず効率的に対応

二次試験（記述式）

○憲法・民法・行政法・公共政策A

- 公務員講座テキストを使用し、過去問で規範・解答パターン暗記
- 制限時間内に書き切る練習
- 資料の使い方・ナンバリングも練習
- 1科目が手つかずになるリスクを考慮し、3科目分の対策

○使用教材

- 『スー過去』
- 公務員講座テキスト・問題集
- 学部講義レジュメ・教科書

【経済区分 専門科目 対策法】

一次試験（多肢選択式）

○経済理論・財政学・経済政策（必須）

- 『スー過去』を完全理解するまで周回
- 問題の意味・利用法を理解し暗記にせず対応

○経済事情（必須）

- 『速攻の時事』の経済学部分を重点的に読む
- 誤答選択肢を確実に消去して正答率を高める

○統計学・計量経済学（必須）

- 過去問演習でパターン把握
- 不明部分は統計教科書やネット記事で補強

二次試験（記述式）

○経済理論（必須）

- 『スー過去』周回後、『経済学ゼミナール上級』を自力で解けるまで演習
- 論理の流れ・数式の意味を明確に説明できるよう練習

○経済政策（選択）

- 『スー過去』で論点定着
- 財政政策・金融政策・産業政策などの要点をまとめる
- 「課題→政策→効果/懸念点」の流れを意識

○使用教材

- 『スー過去』
- 『経済学ゼミナール上級』
- 新聞や白書

1-3 コラム

経済区分の試験を「独学」で受験し、合格した内定者の勉強法をご紹介します！！

\内定者インタビュー/ 独学での 経済区分対策

【状況】

- ・経済学は初見&独学
- ・2月に勉強を開始
- ・公務員を考え始めたのが遅かったため、少ない勉強時間で合格できる対策が必要だった→確実性の低い時事問題や政策論文試験はあまり対策しなかった
- ・1日6~8時間を勉強に充てた
- ・2月&3月前半は一次試験の勉強、以降は記述試験の勉強をした

【一次試験対策】

○基礎能力試験

- ・文章読解や資料解釈は民間就活のWebテ(SPI、玉手箱)の対策と同様。
- ・判断推理と数的推理は過去問がジャンル別に解説されているような参考書に取り組み、解き方を理解する。
- ・時事問題は日頃からどれだけ追えているかで決まるので、突貫工事で何とかしようとするのは難しいと思う。

○専門科目(選択式)

- ・その経済学の概念が何のために用いられ、どのように用いるかを意識して問題を解き続けた。
- ・『公務員試験新スーパー過去問ゼミ7 ミクロ経済学/マクロ経済学』(実務教育出版)の問題を全て解けるようになるまで周回した。

【二次試験対策】

○専門試験(記述式)

- ・選択式で用いた参考書では難易度が足りないため、『経済学ゼミナール 上級編』(実務教育出版)を全て解けるようになるまで周回した。
- ・↑の参考書は初見ではかなり難しいが、これが全て解けるようになれば、記述試験で圧倒的なアドバンテージを取れる。
- ・専門試験の模範解答は独学範囲ではおそらく存在しないため、適宜AIを用いた(盲信はダメです)。

○総合論文試験

- ・政策論文試験で8点を採った先輩からの「書いた政策にオリジナリティはなくとも高得点が来たため、素直なことを理路整然と記述することが求められていると思う」というアドバイスを胸に刻んで挑んだ。

○人事院面接

- ・民間の面接で本番を経験しておくことが重要だと思う。
- ・ESは面接官が質問しやすいようなところを散りばめておくと、想定外の質問が減る。

2 官庁訪問

2-1 官庁訪問 基本情報・・・p23

2-2 官庁訪問対策・・・p25

2-3 官庁訪問当日の過ごし方・・・p30

2-4 最後の決め手!農林水産省を選んだ理由
・・・p33

2-5 コラム:官庁訪問エピソード集・・・p40

2-1 官庁訪問 基本情報

◆官庁訪問とは

- 官庁訪問は、国家公務員採用試験の最終合格後、受験者が志望省庁を訪問し、業務説明や面接を受けるもので、志望省庁に採用されるための重要なステップです。
- 受験者は約2週間にわたって志望省庁を訪問し、繰り返し面接を受けます。
- 志望する省庁に採用されるためには、必ず官庁訪問に参加し、志望省庁から内々定を得る必要があります。 ※国家公務員採用試験最終合格＝採用ではないので注意！

【参考 2025年度の官庁訪問】

最終合格

1日目	2日目	3日目
A省	B省	C省

【第1・第2クール】（各3日間）

- 第一志望から第三志望までの省庁を、原則1日ずつ訪問可能（1つや2つでもOK）。
- この期間中は、訪問順を変えることはできない。
- 第1クールはオンラインでも面接を受けられる。

1日目	2日目
A省	B省

【第3クール】（2日間）

- 訪問順がリセットされるため、第1・2クールの2日目や3日目に訪問した省庁を第3クール初日に訪問することも可能となる。

1日目
A省

【第4クール】（1日間）

- 夕方5時以降に「内々定」が解禁される

内々定

※あくまでも、2025年度のスケジュールです。
詳細は、人事院や各省庁の公式HPなどをご確認ください。

【POINT!!】

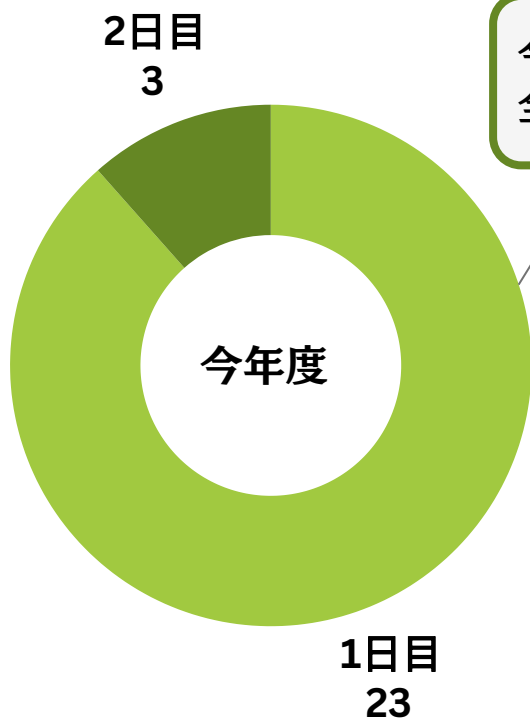
- 原課面接**：省内で実際に業務を担当している職員の方々との面接。業務についてお話を伺い、こちらからの逆質問などを通して政策への理解を深めていく。
- 秘書課面接**：秘書課の職員の方々との面接。志望動機や興味関心、やってみたいこと、原課面接で学んだことなどを伝える機会となる。1日の最後には、その日のフィードバックをいただいたり、次クール以降の説明を受けたりする。

2-1 官庁訪問 基本情報

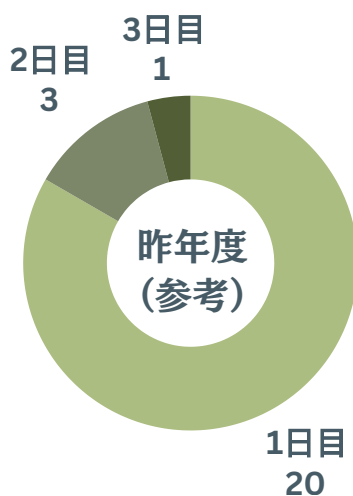
◆内定者の訪問先

【農林水産省を訪問した日】

農林水産省

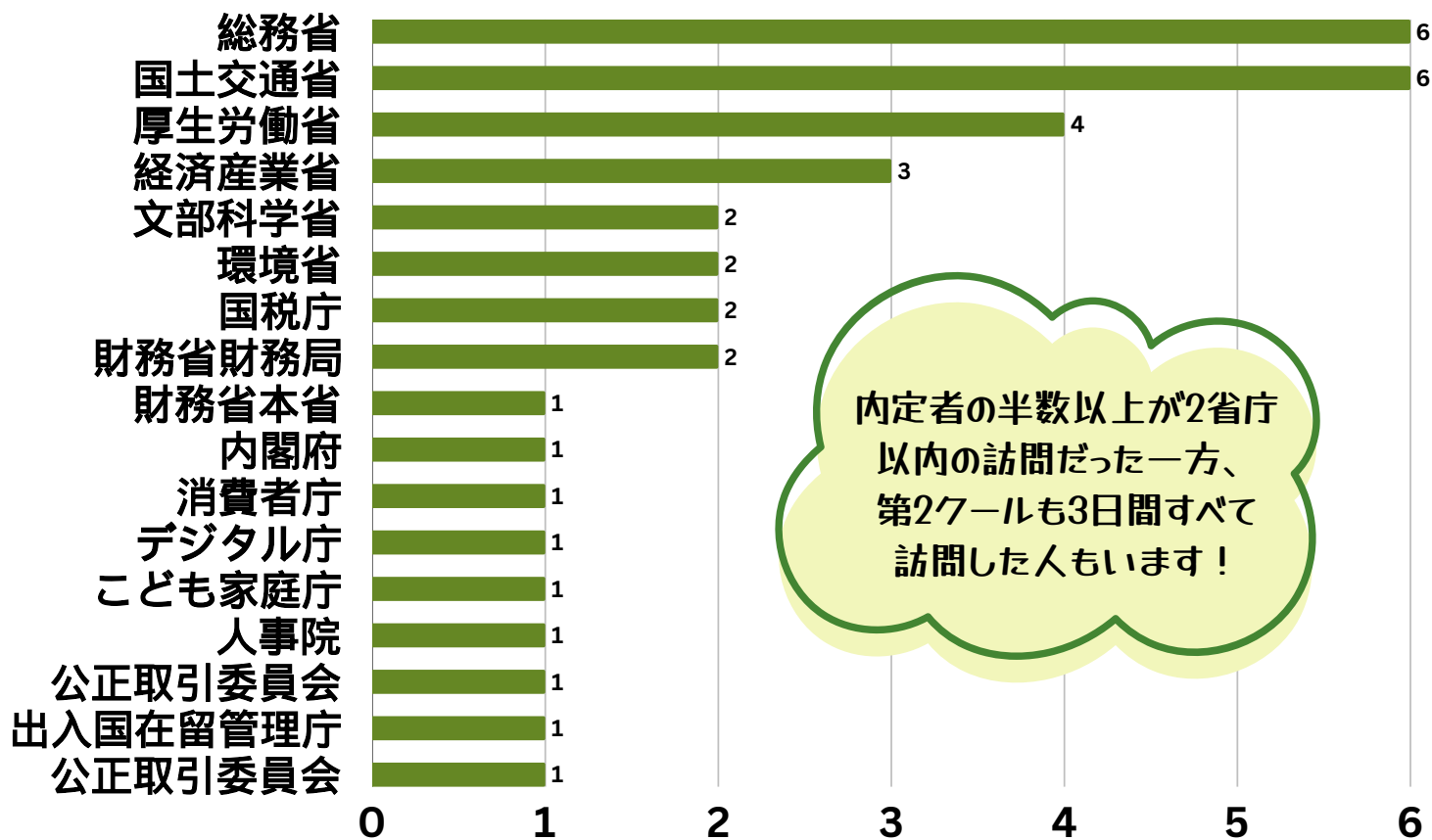


今年度の内定者は1日目と2日目訪問者のみでしたが、全ての訪問日から内定者が出る年もあります。



併願先は、地方創生や日々の暮らしなど共通のテーマが見つかりやすい総務省(自治)と国土交通省が最多となりつつも、様々な省庁が挙がっており、内定者の幅広い興味関心が伺えます。

【農林水産省以外の訪問先 (訪問日を問わない)】



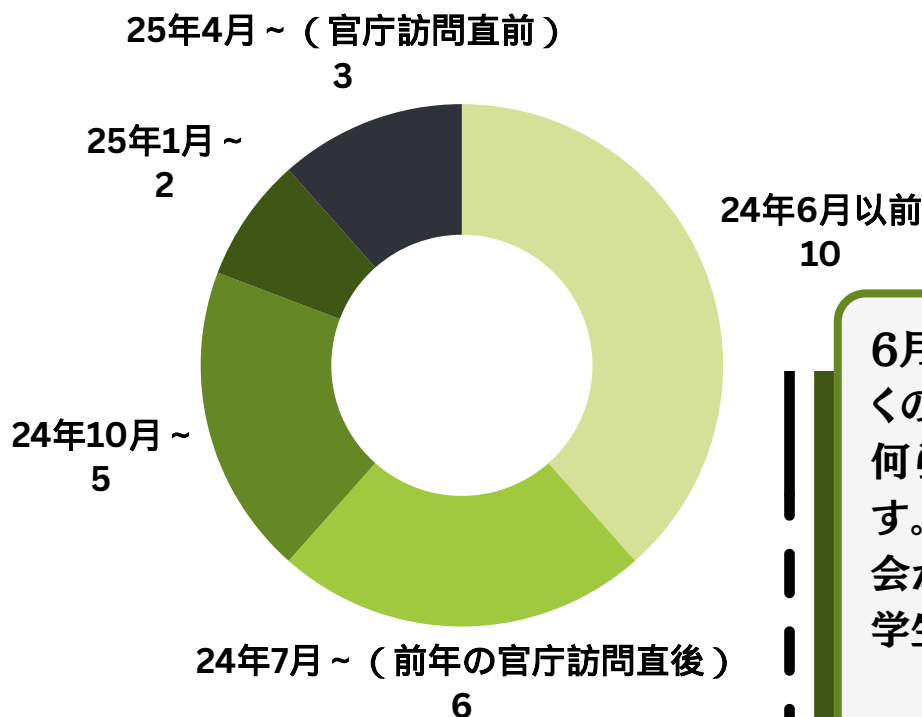
内定者の半数以上が2省庁以内の訪問だった一方、第2クールも3日間すべて訪問した人もいます！

2-2 官庁訪問対策

◆官庁訪問までの過ごし方～イベント参加～

農林水産省では、官庁訪問の前に、政策講演会、政策シミュレーション、現場訪問、職員訪問、インターンシップ、採用担当との個別相談会など様々なイベントが企画されています。ここでは、内定者のイベント参加状況についてお伝えします！

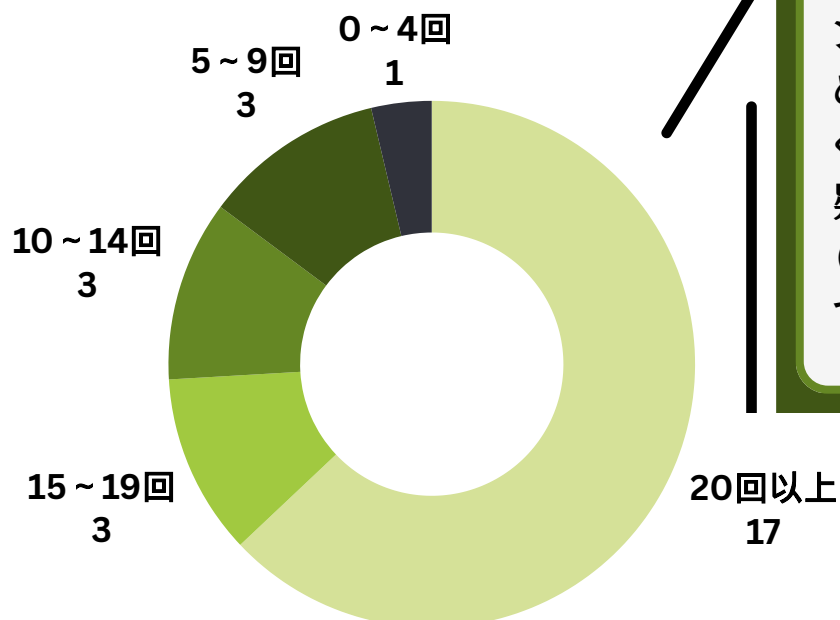
【イベント参加開始時期】



6月の官庁訪問に参加する場合、多くの学生が前年の秋ごろまでには何らかのイベントに参加しています。一方で、官庁訪問直前期の説明会から参加し、内定をGETしている学生もいます!!!

また、内定者の多くが、関心のある省庁の説明会等に積極的に参加していました。最近是对面とオンライン併用型の説明会も増えているため、より多くのイベントに参加しやすくなっています。説明会終了後の質疑応答の場を利用して、官庁訪問（原課面接）での逆質問の練習をしていた、という声もありました。

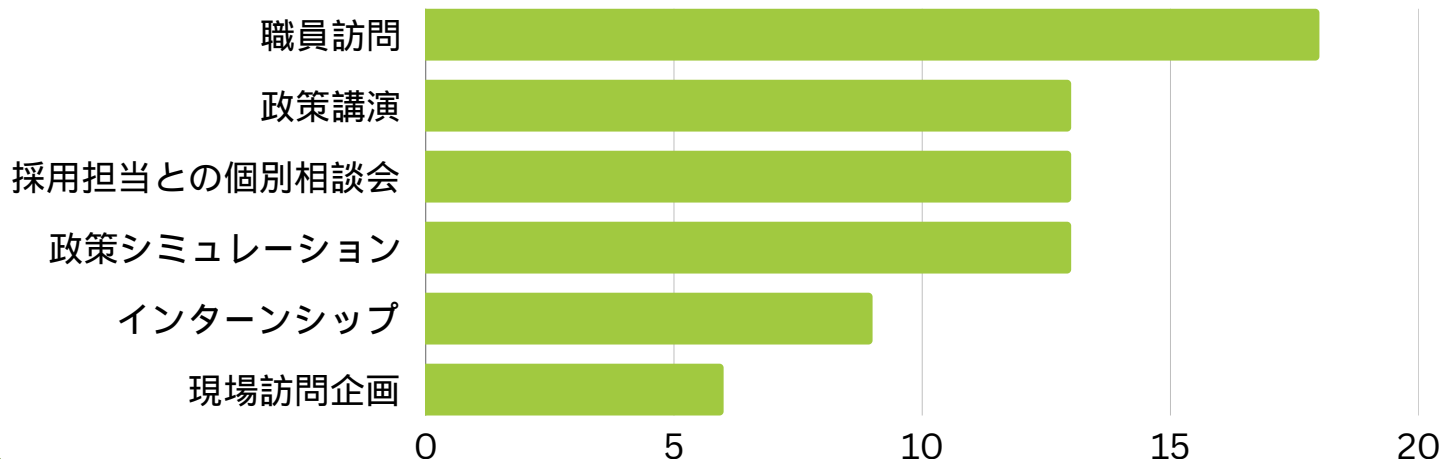
【イベント参加回数】



2-2 官庁訪問対策

◆官庁訪問までの過ごし方～イベント参加～

【内定者のおすすめイベント（農林水産省主催のもの）】



【おすすめの理由】

○職員訪問

- メールで気軽に申し込み、職員の方と1対1で、気になっている質問を全てぶつけられる。
- 政策や仕事内容以外にも、働き方や職員の方の個人の考え、就活のアドバイスなど、幅広い内容について個別でお話を聞ける貴重な機会。講演会でなかなか質問できないという方にもおすすめ。
- 官庁訪問の原課面接に形式が似ているため、練習になる。

○採用担当との個別相談会

- 就活において不安に思っていることについて1対1で聞けると同時に、採用担当に自分のことを知ってもらえる。
- 採用担当の方とお話する中で、自分の考え（志望動機や政策についての意見など）をまとめることができた。

○政策シミュレーション

- 政策に関する基礎知識はもちろん、現行制度の課題点や、省としての今後の方針などを一気に学べる。自分の頭で考えながら政策を学べる良い機会。
- グループワーク形式なので、他の学生たちがどのような問題意識を持っているかを知り、自分には無い視点について気が付けた。教養区分の2次試験対策にも役立った。
- 職員の方の講評や他の学生のアイデアを吸収して、官庁訪問に活かした。

○政策講演

- 最新の政策について短時間で凝縮して教えてもらえた。
- 各分野の課題や現行制度、今後の展望についてこの場で学び、官庁訪問前に「そこに自分はどうアプローチするか」ともう一歩踏み込んで考えてみた。
- 他の学生の質問などを聞いてみるのも面白い（勉強になる）。

初めての方は、ビギナー講演会がおススメ！

2-2 官庁訪問対策

◆官庁訪問までの過ごし方～自己分析～

官庁訪問時には、事前に訪問する各省庁へエントリーシート（身上書・来訪者メモ・履歴書・面接カードなど、名称はそれぞれ）を提出する必要があります。多くの場合、志望動機に加え、自己PRや学生時代に力を入れたこと、長所短所などを記入することとなります。

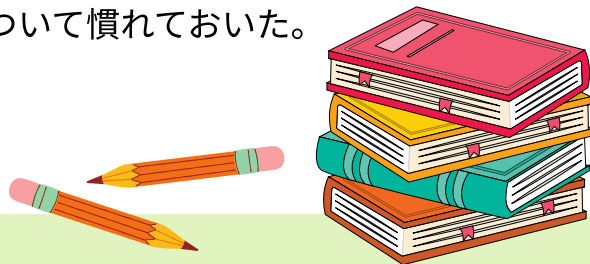
【自己PR・ガクチカ作成アドバイス】

○ステップ1：自分の経験を振り返る＝自己分析

- 些細な出来事でも描き出して、長所短所やガクチカなどを見つけていった。
- 自分の年表を作り、何かの選択の際、どのような思考プロセスでその選択に至ったかを分析した。
- 組織の中で自分がどういった立ち回りをしてきたかをベースに自己分析を行った。
- 「自分をどういう人間としてアピールしたいか」をまず考え、それを分かりやすく伝えられるエピソードを見つけて言語化した。
- 学生時代に頑張ったことについては、達成したことの他に、至らなかった点や自分の弱みなどもまとめ、そこから得た学びや気づきまで言語化した（実際に面接で聞かれた）。

○ステップ2：文章化&フィードバックを貰う

- 他の志望者と身上書を見せ合って添削してもらった。
- 添削を繰り返しながら、より良い表現かつ自分の考えに合った文章を作っていた。自分で言語化できていなかった点や、フィードバックを貰っても腑に落ちなかったことを把握しておき、徐々に言語化していった。
- 採用担当との個別相談会でアドバイスをいただいた。
- 出来た文章をもとに想定問答を考えることで、一貫性のある受け答えができるよう準備していた。
- 民間就活の面接を繰り返し、ガクチカ周りの質問について慣れておいた。



【POINT!!】

- 自己PRやガクチカなどを文章化したら、周りの人に添削してもらいましょう！
- 添削・フィードバック相談相手の例

大学のキャリア支援センター、先輩、一緒に受験する友人、民間就活の場、公務員講座の先生、人材系企業の面接、就活支援団体のメンター、公務員志望でない友人、家族、アルバイト先の社会人、新卒応援ハローワークなど

2-2 官庁訪問対策

◆官庁訪問までの過ごし方～志望動機作成～

【志望動機作成アドバイス】

○ステップ1：各省庁のミッションなどを理解する

- ・ 省庁の政策講演やビギナー講演会で、その省の使命や働き方を勉強した。
- ・ 農林水産省の職員の方と積極的に関わった。職員と話し合う中で、自分がなぜその省に惹かれるのか、その背景にはどのような経験があるのかが見えてくる。また、農林水産省の人と雰囲気合うな、自分はこういう性格なのかもしれない、という気づきもあった。

○ステップ2：実際に志望動機を考える

- ・ ①今の社会に対する課題意識、②課題感を抱く理由や経験・背景、③それをその省でどう解決するか、という3点を言語化していった。
- ・ 「国家公務員になって何がしたいのか(課題意識・興味関心)」を起点に、「なぜそう思うようになったか(原体験)」を遡り、「具体的にどのようなアプローチができると思うか(やりたいこと)」を考え、マインドマップにまとめた。
- ・ 不完全でもいいから文章としてアウトプットし、それを繰り返してブラッシュアップしていった。

○ステップ3：添削・ブラッシュアップを行う

- ・ 志望動機の一文に対して「なぜ」を三回繰り返す。
- ・ 採用担当との個別相談や、友人からのアドバイスを活用して内容を改善していった。



【面接慣れのために行ったこと】

○一人で練習する

- ・ 想定質問への回答をひたすら声に出して練習し、たとえば思考がフリーズしても自動で話せるくらい染みこませた。
- ・ zoomなどを活用して自分を見ながら話す練習をした。

○実践を積む

- ・ 民間就活・他の志望者や内定者の先輩との練習・公務員講座などを活用する。

【POINT!!】

○その他のアドバイス

- ・ (地方開催でも本省開催でも) 対面のイベントに行くと顔見知りができるのでおすすめです。官庁訪問前にESを添削し合えるし、当日も励みになります。
- ・ 学生同士の繋がりを大切にすると良いと思います！
- ・ イベントなどで一度でも農林水産省の建物を訪れておくと、官庁訪問時の緊張が和らぎます。

2-2 官庁訪問対策

◆官庁訪問までの過ごし方～政策研究～

【政策研究に関するアドバイス】

○農林水産省の採用イベントを活用する

- ・ 職員の方々の話を聞きながら、「自分ならどうするか」を常に考えていた。
- ・ 政策講演会を、自分の原体験から生まれた問題意識と政策知識とを結びつける場として活用した。「何をどう変えたいのか」「どんな社会をつくりたいのか」を重視し、細かい政策知識はあくまでその材料としていた。
- ・ 個別の政策講演の内容も大切だが、最も重要なのは「省全体として何を目指して政策を打ち出しているのか」という大きな流れを把握することだと思った。
- ・ 自分で調べても分からないものは、職員訪問で詳しく教えてもらった。
- ・ 説明会の資料を参考に、疑問を持った点から波及するように調べ、その内容を他の志望者と共有して議論を行った。

ただ説明を聞くのではなく、自分の意見や疑問点を常に意識しながらイベントに参加することが重要なですね！

他省庁の説明会に参加して視野を広げ、同一課題に対してのアプローチの違いについて学ぶことで、各省庁への理解を深めた、という意見もあります！！

○ニュース・書籍などを活用する

- ・ 新聞を読みながら、今の課題とそこに対応する政策を整理した。自分が興味ある分野については白書やHPを利用して理解を深めた。
- ・ 複数の中立なメディアでニュースを見続け、それに対する自分の意見は何かを考えた。
- ・ 財務省の財政制度審議会の資料（農林水産行政に関する部分）を読んで、どのような指摘がなされているか、情報収集をした。

【内定者おすすめの本】

- ・ 『農政改革』（奥原正明(著)、日本経済新聞出版、2019年）
- ・ 『農政改革の原点』（奥原正明(著)、日本経済新聞出版、2020年）
- ・ 『日本の食料安全保障』（末松広行(著)、育鵬社、2023年）
- ・ 『霞が関の人になってみた』（霞いちか(著)、カンゼン、2023年）
- ・ 『行政課題・政策論のポイント』（高瀬淳一(編著)、実務教育出版、2025年）
- ・ 『農家はもっと減っていい』（久松達夫(著)、光文社、2022年）
- ・ 『人口戦略法案』（山崎史郎(著)、日本経済新聞出版、2021年）

BUZZ MUFFは
農林水産省の入り口
として便利です

2-3 官庁訪問 当日の過ごし方

◆当日の服装と持ち物

内定者に聞いた、官庁訪問の服装や持ち物、期間中の過ごし方についてお伝えします！

【当日の服装】

- ジャケット
- クールビズ



6月の官庁訪問では、クールビズとジャケット、どちらの服装でも問題ありません。中には、夏用の半袖のYシャツにジャケットを持参し、面接時はジャケットを着用するなど、臨機応変に温度調節をしている人もいました。

【持参したかばん】

- リュック
- ビジネスバッグ



内定者の多くがビジネスバッグで訪問していますが、リュックサックで参加した人もいます。ものを出し入れしやすいカバンがおすすめです。原課面接で紙の資料をいただく場合もあるので、A4が入る大きさのものとGOOD!!です。



【持参すべきもの】

- ノート・メモ帳、筆記用具
- 腕時計
- 身上書のコピー
- これまでの説明会で貰った資料
- 軽食や飲み物、お菓子
- 常備薬
- 前向きで強いメンタル、熱意！！

【あると便利なもの】

- 名刺入れ
- クリアファイル
- お守り、持っていて安心できるもの
- 化粧品など（口紅、櫛、予備のヘアゴム、目薬、歯磨きセット、替えのストッキング）
- 本（暇つぶし用）

2-3 官庁訪問 当日の過ごし方

◆面接で聞かれたこと

【秘書課面接で聞かれた質問】

○志望動機

- ・ 農林水産省の志望理由とその深掘り（原体験など）←身上書に沿った内容
- ・ 国家公務員でなければならない理由 / 民間との違い

○訪問者自身について

- ・ 大学で学んでいること / 研究の内容
- ・ ガクチカ / 学業以外に力を入れたこと
- ・ 周囲の人からどういう人間だと言われるか
- ・ 自分の弱み / 挫折経験

○社会課題全般について

- ・ 実現したい社会像

○政策について

- ・ 農林水産業の課題とその解決策
- ・ 農林水産省の政策の中で批判的に考えているものはあるか

○官庁訪問を通して

- ・ 農林水産省について疑問・不安に思っていること
- ・ 原課面接の感想、その面接を通して自分の考えや問題意識がどう変わったか

秘書課面接で気を付けたこと！

「できるだけいつも通りの調子で」
「自分の言葉で・結論から端的に」
「明るくハキハキと」

「とある秘書課面接で答えに詰まってしまう場面があり、かなり落ち込んだが、その次の面接では気持ちを切り替えて、

『先程の面接では質問に上手く答えられなかったが、逆に〇〇という視点の欠落に気がついた。その反省を踏まえて自分の課題意識をこうアップデートすると...』と続けた。手ごたえの悪い面接があっても、そこから学んだことを整理することで、官庁訪問全体を通して自分の成長を示すことができたと思う。」 by内定者

【原課面接で聞かれた質問】

- ・ 職員の方のお話を聞いた後の逆質問が基本だった（多数意見）
- ・ 政策の内容に関するディスカッション（現場を見てどう思ったか / 今後の輸出戦略をどのように考えるか / 現状の米問題をどう捉えているか...など）

2-3 官庁訪問 当日の過ごし方

◆待合室での過ごし方

官庁訪問では、次の面接に呼ばれるまで待合のための部屋で待ちます。内定者に聞いた、待合室での有効的な過ごし方アドバイス集を紹介します。

○面接の振り返り

- 直前の面接で話した内容・聞かれた質問の整理。
- 原課面接で聞いた具体的な政策の話を、自分の原体験や問題意識と結び付け、より深められないか考えた。
- 面接を通じた考えが変わったこと、農林水産省の印象や志望度がどう変わったかについて振り返った。

○その他

- 他の学生とおしゃべりをして息抜きした（多数意見）。
- 面接の手ごたえが悪いとき、甘いものを食べて切り替えた。



◆その他、官庁訪問に関するアドバイス

【当日の雰囲気・心構えなど】

- 待ち時間が長いので、面接のときは気を引き締め、待ち時間はリラックスする、というメリハリが重要だと思います。また、同室の志望者同士でたくさん話したことは、緊張緩和にととても役立ちました。
- 試験に最終合格している時点で志望者全員優秀であることは間違いないので、最後は熱意とメンタル勝負だと思いました。こんなにいろいろな省庁の職員さんと真剣に話ができる貴重な機会はないので、適度な緊張感を持って、前向きな気持ちで楽しく会話するべし！
- 睡眠と食事が第一です！慣れない環境で、緊張感の中、現役の官僚と何時間も対話し続けるのはとにかく疲れます。家やホテルに帰ったらすぐ寝る、ご飯はなるべくしっかり食べることをオススメします！
- 精神的、体力的にかなり消耗すると思うので、間の土日はあまり大掛かりな予定をいれないことをおすすめします。
- 官庁訪問期間中の土日は、就活を忘れてリフレッシュできる予定を入れました。
- 廊下で地図とにらめっこしていたら、親切な方が道を教えてくれました。
- 面接に向かうために廊下を歩いていたら、突然ラジオ体操の音楽が聞こえてきてびっくりしました。毎日15時に流れるそうです。

2-4 最後の決め手!農林水産省を選んだ理由

◆併願省庁と農林水産省との比較

最大で3つの省庁を訪問できる、官庁訪問。多くの選択肢がある中で、内定者が最終的に農林水産省を選んだ理由を、他省庁との比較を通してご紹介します！
内定者の併願先については、24ページのグラフもご参照ください。

【国土交通省】

○迷った理由

- 地方創生というテーマに対して、街づくり、交通、観光、インフラ整備など幅広い分野でアプローチできそうだった。
- 鉄道や道路を所管していて、身近な所で国民の生活基盤を支えられると思ったから。
- 観光政策や地域交通に魅力を感じたから。
- 具体的な事業を所掌しており、自分事として身近に考えながら仕事ができると思った。
- 農林水産省と同じく、現場の人と密接に関われる点が面白そうだと感じた。

○農林水産省を選んだ理由

- 食料・農業・農村という一貫したミッションがあるので、特定の課題に長期間かけて取り組めると思った。
- 観光政策に魅力を感じていたが、その中身は食や第一次産業であることが多いと気がついた。また、どの部署にいても同じ目標に向かっていることが実感しやすいと考えた。
- 様々な分野に触れるよりも、「基幹産業としての第1次産業振興」のように、軸がしっかりしている方が、自分の性格や関心に近かった。
- 地方の中でも農村部にスポットライトを当てており、自分の問題意識（農村部の過疎化が進む状況を改善したい）により合致していた。
- 個人的に、どの部署に異動しても興味関心を持って楽しく働けそうだった。
- 人柄や雰囲気自分が合っている気がした。

「一次産業」という農林水産省ならではのフィールドや、「食」というテーマの一貫性に魅力を感じた学生が多いようです！！

2-4 最後の決め手!農林水産省を選んだ理由

◆併願省庁と農林水産省との比較

【総務省（地方自治）】

○迷った理由

- 制度官庁ということもあり、特定の分野に縛られずに地方創生への政策立案に貢献できると思ったため。
- 地方自治体を通して地方創生に関われることに魅力を感じたから。
- 地方行財政を調整することで国家のかじ取りをする、という点が魅力的だと思った。
- 地方団体の行財政運営と、消防庁での事業に関心があった。

○農林水産省を選んだ理由

- 農林水産省には第一次産業という明確かつ具体のフィールドがあるからこそ、現状発生している課題に対してより直接的にアプローチできると思った。
- 第一次産業という現場を持っているため、より実感を持って働けると思った。（手触り感がある。）
- 現場の意見や状況を直接聞き、それを政策に反映できる部分に魅力を感じた。
- 地方それぞれの魅力が必ず反映される「食」というツールを通した地方創生への貢献ができるのが農林水産省の特徴だと思った。

【厚生労働省】

○迷った理由

- 労働や医療、福祉という生活に密着した分野の政策立案を通じて、誰もが心身豊かに暮らせる社会を作りたいと考えたから。特に労働環境改善に関心を持っていた。
- 生活の基盤として人々の暮らしと仕事を支えたかった。
- 自分らしく生きる上での基盤を担える点に魅力を感じたため。
- 地域の生活基盤の整備という点で、医療や介護に関心を持った。

○農林水産省を選んだ理由

- 厚生労働省は幅広い分野を所掌する一方、農林水産省には明確な軸があり、それに奥深く関わることができる点に魅力を感じた。
- 農林水産業の現場と二人三脚で、前向きな出口に向かっていけるように思った。
- 食べるものがないと人間は生きていけない、という根源に強い思いをもっているから。

2-4 最後の決め手!農林水産省を選んだ理由

◆併願省庁と農林水産省との比較

【経済産業省】

○迷った理由

- ・ 他省庁と関わりながら、外部不経済として起こっている問題を内部化することに取り組めると考えたため。
- ・ 日本が、安定した社会と現在の国際的地位を保つには、産業の力と技術力の維持および発展が不可欠であると感じていた。そこで、産業に必須となる成長戦略やエネルギー政策を所管する経産省を選んだ。
- ・ 二次・三次産業を通じて社会をより良い方向へ導く政策実行が可能だから / 所掌が広く様々な経験ができると思ったから。

○農林水産省を選んだ理由

- ・ 所管産業と二人三脚で、よりダイレクトに人の生活に関わる仕事ができると思った。
- ・ 職員の方の人柄が自分に合っていると感じた。
- ・ 農林水産業や食品業界は市場原理だけに任せることのできないものだからこそ、政府として介入すべき意義があると思ったから。

【環境省】

○迷った理由

- ・ 人の当たりまえを守る、支えることに関わりたいと思っていた。環境も食と同じく人の命に関わる大きなものだったため。
- ・ 専攻分野と省の所掌範囲が合致していて、専門性を活かした仕事ができると思った。

○農林水産省を選んだ理由

- ・ 食という軸で生産から消費までの多種多様な政策に関わることができる点に惹かれた。
- ・ 組織が大きく、国内外の出向先や職務領域などの選択肢が広いと感じたため。

【訪問順の決め方】

- ・ 志望順 / 自分が入省したいと考えた順番（最多意見）
- ・ ずっと決められなかったので、それぞれの省庁を見始めた順番で回った。
- ・ 政策に関する自分の関心度合い（参加したイベントを通して、より楽しいと思えた順）。
- ・ 自分のやりたいことを最優先に。次に、「素敵だな」と思った職員の方がいるところに。最後は単純な興味で決めた。

※インターネット上には訪問順に関する様々な噂が飛び交っていますが、基本的には、自分の志望順通りに回ることをおすすめします。

2-4 最後の決め手!農林水産省を選んだ理由

◆併願省庁と農林水産省との比較

【文部科学省】

○迷った理由

- 人口減少社会においても日本が影響力を持ち続けるためには、人口の「質」の強靱化が必要と考え、そのためには教育が何よりも重要だと思った。また、科学技術や文化、スポーツを通して、日本の国際プレゼンス向上に期待できると考えた。
- 次世代の子どもたちのため、教育に関わる仕事につきたいと思っていた。

○農林水産省を選んだ理由

- 日本の国際プレゼンス向上については、農林水産省でも輸出、食文化の発信、食料安全保障の実現にむけた国際交渉などを通して貢献できると思った。また、農林水産省の官庁訪問では、面接を通して学んだことや考えが変わった点などについて言語化を求められる機会が多く、そのプロセスを経ることで、自分のやりたいことが明確になった。
- 官庁訪問で、自分が自分らしく話せる機会が多くあった。



官庁訪問中の成長や、面接を通して感じた省内の雰囲気も、重要な決断要素の一つとなっているようです！

【国税庁】

○迷った理由

- 魅力的な職員の方がいた。また、素朴な正義感と公正さを追い求める姿勢に惹かれた。
- 確定申告のアルバイトをしたときに、税務署の重要性を感じる一方で人手不足や効率の悪さなどの課題意識をもったため。

○農林水産省を選んだ理由

- 農林水産省の方が自分の興味関心に近かった。
- 誰もが異なる個性を持っているにも関わらずそれが上手く調和している心地よさに惹かれた。

2-4 最後の決め手!農林水産省を選んだ理由

◆併願省庁と、農林水産省を選んだ理由

【財務省本省】

○迷った理由

- どんな政策を考えるにあたって「財源」なしに議論することは不可能であるため、国の財政を司る財務省の幅広い業務に魅力を感じた。また、国際的に活躍できるポストが多くあり、自分の人生の可能性を広げられるような気がした。

○農林水産省を選んだ理由

- 国際的な活躍については、専門分野の違いこそあれど、農林水産省でもいくらでもチャンスを得られると思った。また、財務省はフィールドの広さが魅力である一方、自分は特に農林水産行政に興味があった。

【財務省財務局】

○迷った理由

- 全国各県に必ず1つ財務局があるため、全国的な地方創生を金融、財政の両方の点から実行できると感じた。
- 国と地方を繋ぐという役割やキャリアパスの多様性に魅力を感じた。

○農林水産省を選んだ理由

- 具体的な政策を持つ官庁の方が自分にとってより面白いと感じた。また、自分は特に衰退しつつある地方にフォーカスを当てながら地域の魅力向上に携わりたいという思いが強いため、その思いを実現できるのは農林水産省だと感じた。

【外務省】

○迷った理由

- 外交官が国家公務員を目指したきっかけであったため。
- 国際的なキャリアに関心があったため。

○農林水産省を選んだ理由

- 農林水産省なら、国内の問題についても真正面から取り組むことができると思った。
- 農林水産省にも国際的なキャリアパスを歩む職員の方がたくさんいると知った。
- 現場との距離の近さや、国民の生活により直接的に関われる機会が多いところに魅力を感じた。

2-4 最後の決め手!農林水産省を選んだ理由

◆併願省庁と、農林水産省を選んだ理由

【出入国在留管理庁】

○迷った理由

- 国家公務員に興味をもったきっかけの省庁であり、空港での業務や国際色の強い仕事に興味があった。インターンにも参加したため働くイメージがしやすく、自分の実現したい「誰もが好きな場所で安心して暮らせる社会」の実現に貢献できると思った。

○農林水産省を選んだ理由

- イベントの数がとても多く、地方や海外にも出向いてくれるので組織の雰囲気や業務内容が理解しやすかった。また、社会にとって必要不可欠で、国民全員を支える仕事ができると思ったから。

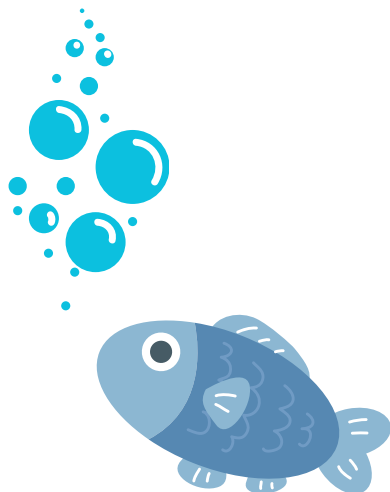
【デジタル庁】

○迷った理由

- 人口減少が進む中でも現在の日本の豊かな生活環境を守っていくためには、デジタルを活用することによる省力化が重要だと思い、国全体のデジタル化に貢献したいと考えたから。

○農林水産省を選んだ理由

- デジタル庁は、デジタル技術による効率化を通して間接的に国民の生活向上に貢献していると感じた一方、農林水産省は生活に不可欠な食を支えているため、生活向上に直接的に貢献できると感じた。自分事として捉えやすいからこそやりがいを強く実感できるのではないかと思った。



2-4 最後の決め手!農林水産省を選んだ理由

◆併願省庁と、農林水産省を選んだ理由

【その他の省庁】

- 国際、地方両方のフィールドで重要な役割を担っている省庁だったため志望したが、規制と振興のバランスという観点から農林水産省を選んだ。(総務省 情報通信)
- やりたいことが多岐に渡るなか、それらを横断的に捉えられると思ったが、職員の方々の人柄に触れる中で最終的に農水省を選んだ。(内閣府)
- 多方面から親子支援ができることも家庭庁を志望していたが、「食」を支えることで現在から将来までの親子の命・幸せをつなぐことができると考えたため、農林水産省を選んだ。(こども家庭庁)
- 官僚の職場環境や待遇の改善についての具体策を知りたかった。頑張る人を支えるところに魅力を感じたが、職員の方のエネルギーを強く感じた点で農水省を選んだ。(人事院)
- 経済分析等を用いて競争政策の立案を進める点に関心を持った一方、農林水産省は主管する産業があり、誰のための政策か、どの現場に向けての仕事かがわかりやすいと思った。(公正取引委員会)

【POINT!!】

- 迷うことは決して悪いことではありません。様々な機会を最大限活用して、自らの気持ちや思考を地道に整理し、また、それを言語化することが重要かと思います!
- 悩んだときは、友人や家族など、フラットに思いを口にできる相手に気持ちをぶつけ、自分の中で整理すると良いと思います。
- 皆さんが官庁訪問で悔いのない選択をすること、そのうえで、農林水産省に来ていただけることを、心より願っております。

2-5 コラム

◆テーマ1

理系学部からの事務系

＼内定者インタビュー／

官庁訪問 エピソード集

【体験談①】

私は理学部出身で、大学では生物の発生に関する研究に取り組んできました。理学部は応用よりも基礎に近い学問を探究する場であり、研究の成果が社会に直接届く機会は多くありません。

そのため、研究を続ける中で、「科学と社会の間には大きな隔たりがある」と痛感しました。実際、国家公務員の事務系職員において理系は少数派であり、行政と理系研究者の間には前提知識や意識のギャップがしばしば存在します。さらに、世間一般と理系との間にも溝があり、専門的な成果が社会に十分に伝わらない現実があります。私はその課題を乗り越えるために、制度設計によって科学と社会をつなぐ役割を果たしたいと考えて、事務系を志望しました。

事務系を選んだ理由には、キャリアの視点もあります。技術系職員は特定分野のスペシャリストとして、農業・林業・水産業のうち一つに深く関わる傾向があります。一方事務系職員は、様々な政策分野を経験しながらジェネラリストとして成長できる道が開かれています。私は、日本の食や農林水産業を幅広く見て課題を解決していきたいと考え、この進路を選びました。



試験対策については、理系の学生にとって有利な点があります。大学院進学を前提とする人が多いため、学部2、3年生のうちに教養区分を受験する時間的余裕があります。教養区分では法律や経済、または特定の分野の専門知識は不要で、基礎的な学力とコミュニケーション能力で十分対応可能です。私自身、受験時は法律や経済の知識は全くなく、最初は大きな不安を感じました。しかし、それが試験や官庁訪問で問題になることはなく、むしろ理系ならではの視点や新技術・研究開発との距離の近さが強みとなりました。

振り返れば、「理系だから不利」という場面は全くありませんでした。大切なことは、社会や政策に関心を持ち、その改善に貢献したいという思いです。もし理系出身で事務系を志すことを迷っている方がいれば、どうか自信をもって挑戦してほしいと思います。

2-5 コラム

◆テーマ1

理系学部からの事務系

\内定者インタビュー/ 官庁訪問 エピソード集

【体験談②】

私は農学部で農業経済を学んでいたため、専門に沿えば技術系の農業科学・水産区分、学んでいた内容を少し広げると事務系の経済区分での受験が可能でした。

最初に農林水産省のイベントに参加したのは、大学2年生の3月のインターンで、その際は技術系の採用担当の方にお世話になりました。その後、公務員試験を本格的に考えたときに、農林水産省では事務系と技術系で採用が分かれていることを知りました。そこで、まず秋試験である教養区分を受験することにしました。(この教養区分は、自分の選択次第で事務系・技術系のどちらにも進むことが可能なので、希望する職種の採用担当等に話を聞くのが良いです。)そして、無事に教養区分での合格を得ることができました。

試験合格後、採用イベントを通じて事務系の採用担当の方とお話しし、事務系は林野や水産といった分野にもキャリアを通じて関わることがある一方、技術系は予算を扱う場面が多いなどという違いがあることを知りました。また、区分によらず共通する業務も多く、どちらを選んでも国家公務員としての役割は変わらないことも理解しました。こうした話を踏まえ、私はより広い分野に関わりながら第一次産業を持続可能な産業へと発展させることに携わりたいと思い、事務系を最終的に選択し、官庁訪問に臨みました。



教養区分で合格した私は、時間に少し余裕があったため、就職活動として民間企業も受けていました。具体的には、シンクタンク、政府系金融、独立行政法人などを受験しました。

民間就活のメリットは、民間企業と国家公務員とで社会課題への関わり方がどのように異なるかを理解できることです。また、官庁訪問よりも先に選考があるため、面接経験を積むことができ、さらに、民間から内定をいただいた上で望む官庁訪問は気持ちに余裕を持つことができました。

一方で、時間と精神的負担は大きな課題でした。数多くの企業から自分が興味ある企業を選び、エントリーするだけでもかなりの時間がかかります。加えて、ES作成、webテスト、面接準備などで、1~4月は公務員就活以上に時間を割いていました。しかし、時間をかけた中でも落とされる企業は少なく、自分は選ばれる人材じゃないのかと落ち込むこともありました。→

2-5 コラム

→しかし、この経験を通じて、私は改めて国家公務員として働きたいという思いを確認することができました。また、公務員に限らず、民間で活躍する方々にも大変お世話になり、立場を超えて共に日本や社会のために頑張りたいという気持ちにもなりました。民間と迷っている方はもちろん、公務員志望の方にとっても、学生の立場で企業の話聞けるのは今しかない機会です。大きな負担にならない範囲で民間就活に取り組むことは、有意義だと私は考えます。

余談ですが、農林水産省イベントなどを通じて知り合った技術系の学生の中には、公務員試験対策や官庁訪問対策を一緒に取り組んだ仲間も多くいました。この文章が、少しでも皆さんの参考になれば幸いです。



◆テーマ2 二度目の官庁訪問

【体験談】

このコラムでは、官庁訪問で一度落ちた学生が留年を経て翌年出直し、ご縁を頂けた経緯について書かせていただきます。

まず一番にお伝えしたいことは、農林水産省の官庁訪問では2回目の訪問者であってもおそらく差別なく、1人1人丁寧に見てくださるということです。私は訪問前に「前回の時点でもうすでに評価が確定していて、今回うかがってもほとんど門前払いで終わったらどうしよう」などと心配していたのですが、杞憂でした。他学生と進行が異なるということもなかったと思います。

ただ前回のご縁の無かった以上、2回目以降は何かしらの小さくない変わり身が必要だと思われます。これは直接官庁側から提示を求められる（「前回の訪問以降今日まで何をしていたの？」と訊かれる、等）という話ではなく、単純に次こそは一定の水準まで成長している必要がある、ということです。

具体的にとった行動としては、省庁主催イベント等に積極的に参加し政策について学びました。官庁訪問の段階で学生相手に深い政策知識が求められることは無いと思いますが、「農林水産省が『食と環境の継承』を目的にこんな取り組みをしている」というざっくりとした知識・視点があると「自分がしたいと思う社会改革は省内ではどのような文脈(ビジョン・ミッション)に属しているのか」が考えられるようになります。

そうした相対化の中で、改めて自分のしたいこと、それにふさわしい環境といった自己分析も進んでいったように思います。



内定に至る道のりには、様々な困難や決断の局面が訪れます。皆さんがそれを乗り越え、納得のいく進路選択ができることを願っています。

3 就活全般

3-1 民間との併願・・・p45

3-2 他の公務員就活との併願・・・p50

3-3 大学院併願・・・p52

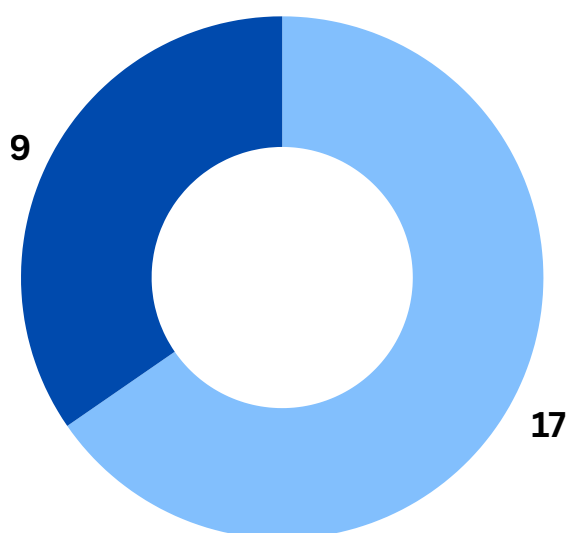
3-4 コラム：就活体験記集・・・p53

3-1 民間との併願

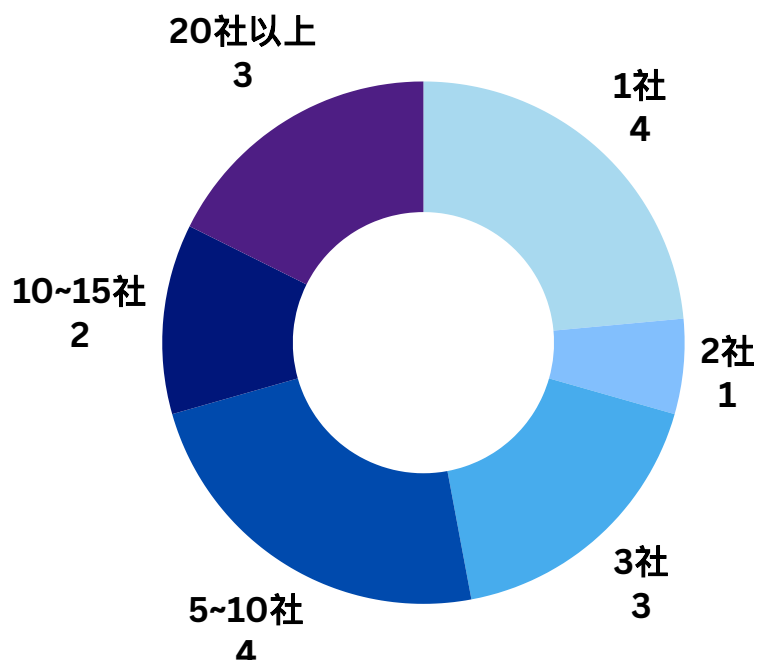
◆内定者基本データ

【民間就活をしたか？】

● していない ● した



【エントリーした企業の数】



【見ていた業界】

○金融系（最多）

- ・ 政府系金融（5人）
- ・ 銀行
- ・ 地銀
- ・ 保険
- ・ JAグループ

○コンサル・シンクタンク

- ・ シンクタンク（3人）
- ・ コンサル（2人）

○製造・インフラ系

- ・ IT
- ・ 製造業
- ・ インフラ（交通・エネルギー）
- ・ 電力
- ・ 不動産

○商社・流通系

- ・ 商社
- ・ メーカーなど

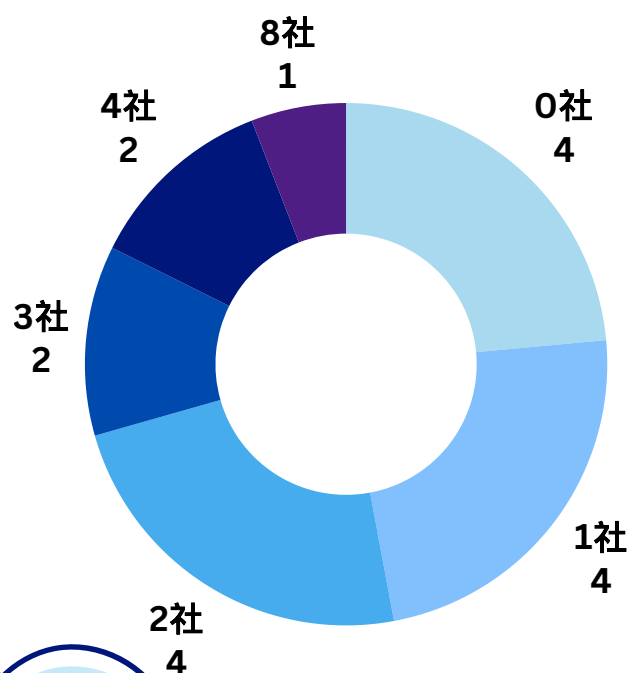
○メディア

- ・ 新聞
- ・ 出版
- ・ 放送協会

○その他

- ・ 農業
- ・ 国立大学法人
- ・ 独立行政法人

【内定企業数（官庁訪問時）】



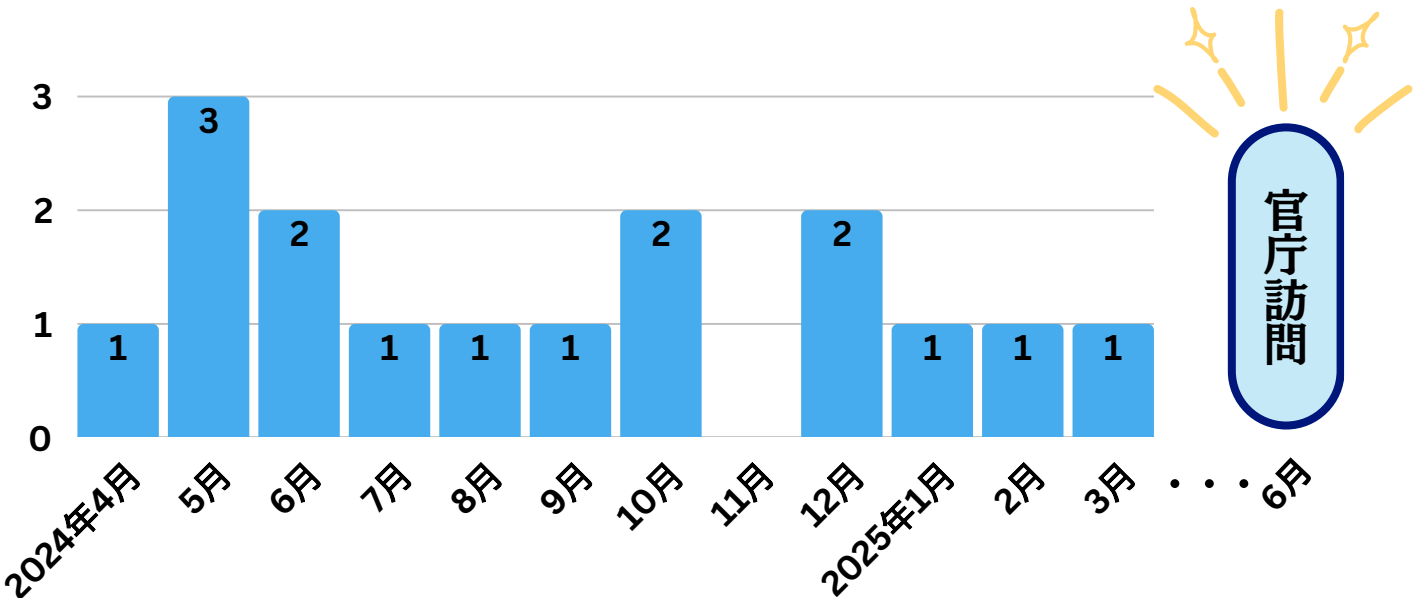
公共性を意識した
選択肢が多くみられますね！

3-1 民間との併願

◆内定者基本データ

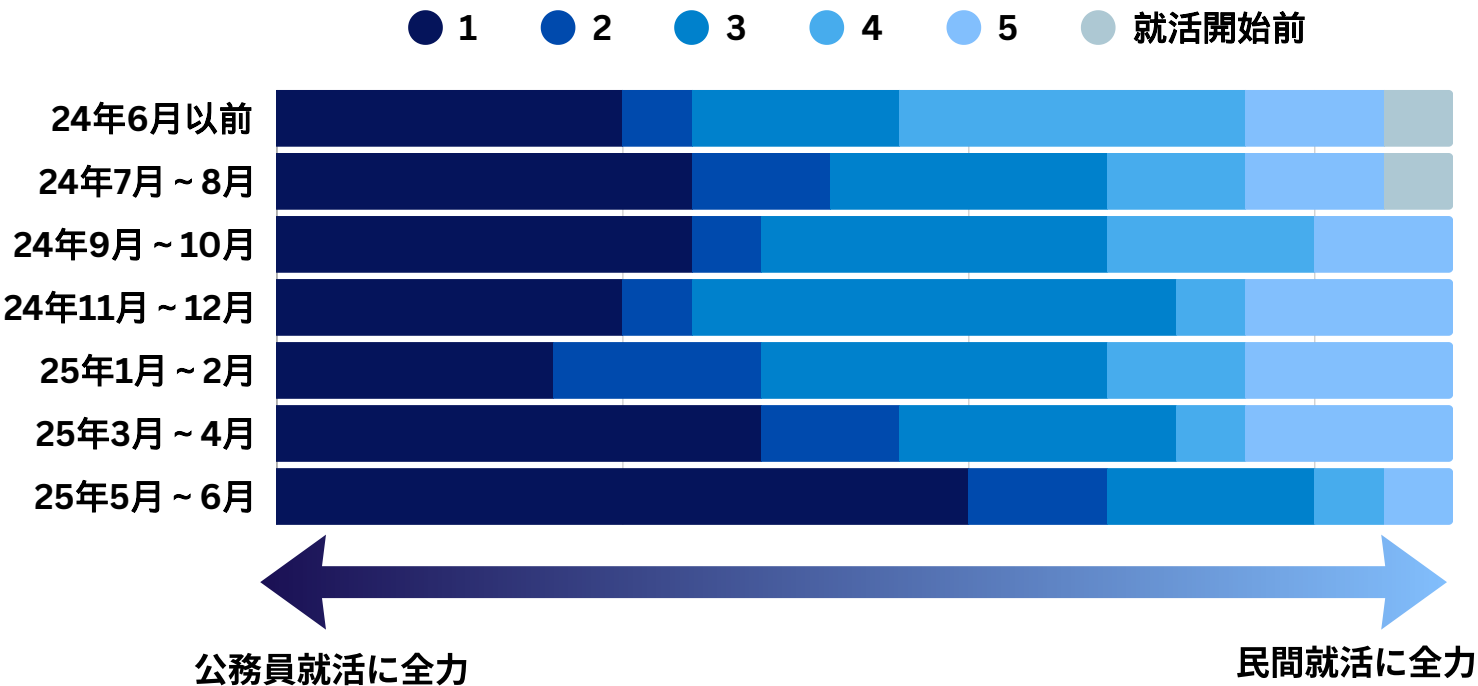
【民間の情報収集を始めた時期】

- 夏・冬のインターンのエントリー期間あたりで民間就活を始める人が多いです。



【公務員就活と民間就活の注力度合い】

- 公務員就活と民間就活の力の入れ具合について、**1（公務員就活に全力）から5（民間就活に全力）**までどの程度であったかを、時期ごとに聞きました。
- 「力を入れる時期を分けて頭の切り替えを図ることが、民間と公務員就活の両立のコツです！」by内定者



3-1 民間との併願

◆民間との併願方法

【民間就活して良かったこと】

○面接スキルの向上

- 場数を踏むことで、話し方のクセを修正し、伝わる話し方を習得できた。
- 面接で求められることを知り、受けの良い・悪い回答の違いを理解できた。
- ガクチカや自己PRをスラスラ答えられるようになった。
- 面接カードの書き方や人物面接の対策を実践的に学べた。

○自己理解の深化

- 自分がどういう点を評価されるかを知り、官庁訪問でのアピールにつなげられた。
- 自己分析を深め、自分が本当にやりたいことを明確化できた。

○比較視点の獲得

- 公務員志望の理由がはっきりし、「自分は民間向きではない」と実感できた。
- 組織ごとの目的やビジョンの違いを意識し、進路を相対的に考えられた。
- 民間の就活を通じて、官庁訪問の疑似体験（OB訪問など）ができた。

○精神的なメリット

- 内定を得ることで安心感をもって官庁訪問に臨めた。
- 普段出会わない人と話す機会を得て、視野を広げることができた。

面接慣れに有効だった、という意見が多いですね。民間就活を通して、かえって公務員志望度を強める人もいました。



3-1 民間との併願

◆民間との併願方法

【民間就活で役立った対策ポイント】

○面接・実践練習で慣れる

- ・ 模擬面接や面接練習を繰り返し、場慣れして自然に話せるようにした。
- ・ プライドを捨てて、素直にフィードバックを受け入れる姿勢が大切。
- ・ 就活支援団体や大学のキャリア支援センターを積極的に利用すると効率的だった。

○インターン・イベントに参加する

- ・ インターンや企業イベントに参加して、実際の雰囲気を感じることが最大の学びだった。
- ・ 早期選考のある企業ではインターンから本選考に繋がる場合もあるので、早めに動くのが有利だと思う。
- ・ 説明会は最低限でも参加し、企業研究を短時間でカバーする工夫が有効だった。

○OB・OG訪問・情報収集を徹底する

- ・ OB・OG訪問を通じて、入社後の具体的なキャリア像を描けるようにした。
- ・ 就活サイト（ワンキャリア等）でESや面接体験談を調べ、想定問答を準備。
- ・ 企業HPや業界研究を通じて、他社との違いを理解することが志望理由の差別化に直結した。

○志望理由・一貫性を意識する

- ・ 「なぜその企業なのか」を明確にし、企業の特徴と自分の関心を接続させた。
- ・ 国家公務員志望の動機をアレンジし、民間向けに説得力を持たせる工夫をした。
- ・ ガクチカ・人物像・企業ビジョンを結び付けて、一貫性あるストーリーを作った。
- ・ 志望理由を「その企業でなければならない理由」に落とし込むことが重要だった。

【POINT!!】

- ・ 官庁訪問と比べ、民間就活の面接は短時間で回数も少ないため、短い時間で端的に説明する力がより求められている、という声が複数聞かれました。
- ・ 「～な社会を御社で実現したい」と話したとき、「それは営利とどう両立するのか」と問われるなど、民間ならではの質問をされることもあります。
- ・ 期間が決まっている官庁訪問と異なり、民間就活の進みは人それぞれなので、周りとは比べず、自分のペースで落ち着いて就活を進めていきましょう！

3-1 民間との併願

◆民間との併願方法

【民間就活を頑張る方へのアドバイス】

○気持ち・モチベーション面

- 自分を信じてベストを尽くしてください。
- 忙しいと思いますが、振り返ると「いい経験だった」と思えるはず。めげずにファイト！
- 公務員就活との両立は精神的にしんどいですが、必ず役に立つ時が来ます。自分を信じて頑張ってください。
- 民間企業の方と話す機会はなかなかないので、その時間を楽しんでください。
- 官庁訪問と民間就活は評価ポイントが異なるので、民間の方であまりうまくいかなくても、過度に心配しなくて大丈夫です。自分を信じて頑張ってください！！

○対策・取り組み方の工夫

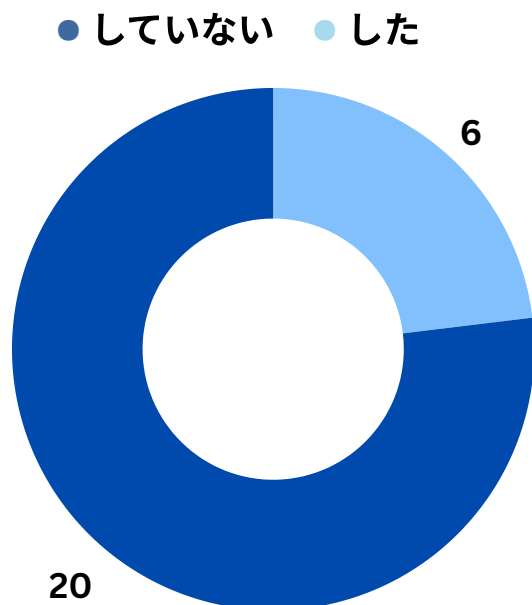
- 志望する省庁と関連する企業を受けるのがおすすめです。
- 両立が辛くなったら、優先順位をはっきり決めておくことが大切です。
- 受けすぎるとキリがないので、早めに納得できる業界や企業を絞ることをおすすめします。
- 国家総合職試験の受験チャンスは、今後さらに早期化します。早めに合格して、余裕を持って民間就活に挑むのが理想です。頑張ってください！！



3-2 他の公務員就活との併願

◆内定者基本データ

【国家総合職以外の公務員試験を受験したか】

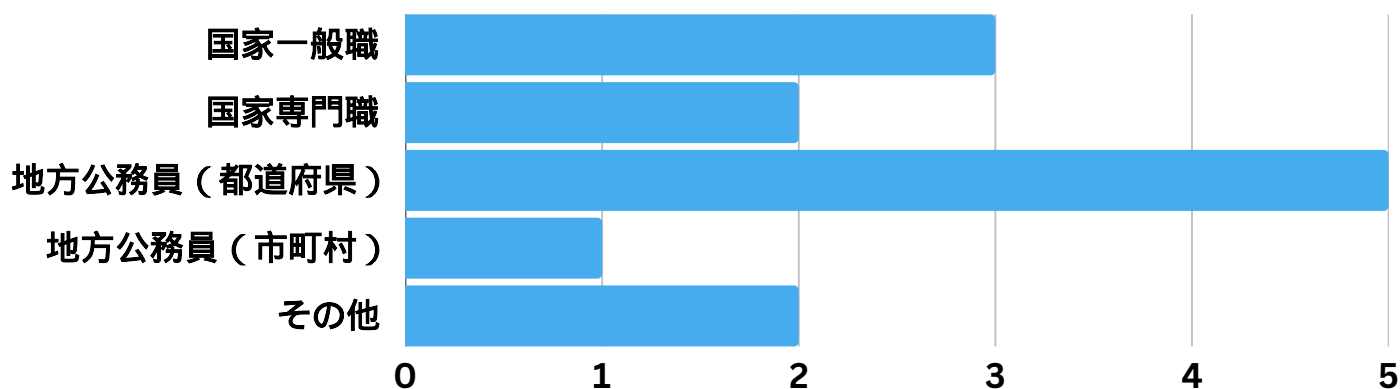


基本的には、国家総合職の試験や官庁訪問などに失敗してしまった際の安心材料として併願をした人が多いようです。

試験科目が被っている職種も多いため、効率よく対策ができた、という声が聞かれました。

民間ではなく「公務員」であることにこだわりがある人にとっては、特におススメの併願先かもしれませんね。

【併願先】



※国家専門職：外務省、防衛省、財務専門官など

※その他回答：裁判所事務官、衆議院事務局

【POINT!!】

- 各併願先の試験科目や配点を確認し、自分の志望度に合わせて計画的に勉強しましょう！また、受験日・申込日の締め切りチェックを忘れずに！！
- 公務員という立場はそれぞれ同じなので、面接や試験が似ており対策がしやすいという利点があります。大学受験と異なり受験料もかからないため、選択肢の一つとして是非検討してみてください。

3-2 他の公務員就活との併願

◆他の公務員試験との併願方法

【公務員併願で大変だったこと】

- 官庁訪問対策と併願先の説明会、試験対策とのバランスを取ることが難しかった。
- 毎週のように試験があるため、土日があまり休めなかった。
- 教養区分で合格して省庁研究の段階に移ると、春以降にある他の公務員試験のための勉強時間を作るのが大変だった。
- 法律系科目の勉強。教養区分試験を受験したために、試験を受けられるほどの知識が不足していた。
- 基本筆記試験があるので、最後の試験が終わるまで長期間勉強に追われた。裁判所事務官の人物試験の期間が官庁訪問期間とかぶっていたので、一次試験に合格しているのに面接を受けられず無条件に不合格になる可能性があった（私は奇跡的にかぶりませんでした）。
- 同じところを受験する人が他におらず、対策が難しかった。

【併願先の公務員試験対策法】

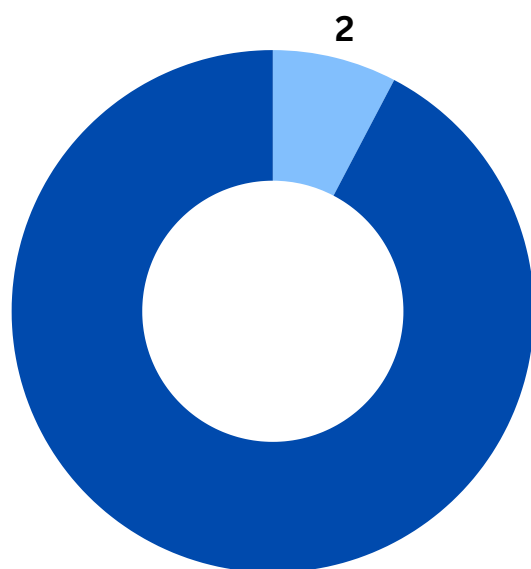
- 同じ科目については国家総合職の試験対策を行っておけば、他の公務員試験にも対応できる。そのため、国家総合職の科目にないものを国家公務員試験後にスーパー過去問ゼミや過去問を用いて重点的に勉強した。
- 筆記試験は国家総合職の試験対策をそのまま活かせる。エントリーシートや面接は、それぞれの受験先に応じて用意できるように、説明会やイベントに積極的に参加した。
- それぞれの試験内容や得点割合を確認して、力を入れるべきところを決めて効率よく進めること。職種、さらには地域によっても試験の倍率やボーダーラインが異なるので、情報をかき集めて戦略的に対策すべし（情報の面に関しては塾や公務員講座が強い気もします）。
- 国家公務員総合職試験対策で得た経験や知識を活かせる部分に関しては最大限活用した。また、学内の公務員講座などで過去問や体験談などを見せてもらった。

試験そのものの勉強はもちろん、職種ごとの科目、倍率、受験スケジュールなどの情報収集が特に重要だった、という声が多いですね！

3-3 大学院との併願

【院試と併願、もしくは大学院進学を検討しましたか】

● 考えていない ● 考えた



大学院入試のためには、公務員試験とはまた異なる学習が必要となります。院試の対策法について、内定者からは、「推薦入試があれば推薦を取る。一般入試なら、2、3年の専門科目でしっかり勉強しておくべき」というアドバイスが聞かれました。

また、官庁訪問に落ちてしまった後、大学院に進学してもう一度院卒の肩書で官庁訪問に再トライする、という選択肢もあります。

「必ず出願期日、試験日程をチェックしておくこと！院試は夏に行われることが多く、官庁訪問の時期と準備期間が重なりがちです。早めに日程を把握しておき、スケジュールを立てることをおすすめします。」 by内定者



3-4 コラム

就活遠回りエピソードや、
海外からの就活事情をご紹介します！！

◆テーマ1

留学留年後の官庁訪問

- ・遠回り年数：1年
- ・その期間にやったこと：交換留学

私はいわゆる「留学留年」組で、1年間の交換留学を経て大学に5年間在籍し、同学年の友人より1年遅れて就職活動を行いました。結論から言えば、この1年の遅れは官庁訪問や民間就活で不利に働くことはなく、強みとなりました。

ただしスケジュール面では工夫が必要です。というのも、帰国直後に官公庁や民間の夏インターンが始まるため、留学中からESの準備を進めねばならず、さらに秋試験を受ける場合は公務員試験までの時間が極めて短いという制約があるからです。

○スケジュール

- ・学部3年9月～4年7月：イタリアへ交換留学
- ・4年目8月～9月上旬：民間や官公庁の夏インターン参加
- ・4年目12月：教養区分試験に合格
- ・5年目6月：官庁訪問参加

\内定者インタビュー/ それぞれの 就活体験記

私は留学前から国家公務員を志望していたため、出国時は気合を入れて、数的処理のテキストをスーツケースに詰めて留学先へ渡りました。しかし、現地では学業や日々の生活に追われ、十分な試験対策はできませんでした。予備校のオンライン講義や市販教材を活用すれば勉強も可能だったでしょうが、私には難しかったのが実情です…。

それでも留学終盤の1か月は、期末試験や帰国準備と並行しつつ夏インターンのESを作成しました。その結果、帰国後は民間1社(1週間)、A省(2週間)、B省(5日間)のインターンに参加し、多くを学ぶ機会を得ました。

一方で、複数のインターンに参加した分、試験勉強のまとまった時間を確保することはさらに難しくなっていました。それでも、「英語系の問題は絶対に落とさない」「面接では留学経験をしっかり言語化する」といった形で、自分の強みに的を絞った戦略で秋試験に臨みました。一次試験後はようやく時間に余裕ができ、二次試験対策に集中した結果、なんとか合格することができました。→

3-4 コラム

→その後は、留学中に学んだことを糧に、官庁訪問まで駆け抜けました。留学経験には、語学力や専門分野に関わる知識はもちろん、日常生活の中でのエピソードや、異国の地で困難を乗り越えた経験など、たくさんのアピールポイントが含まれていると思います。大切なのは、限られた時間の中でも「自分ならではの価値」をどう示すかということだと思います!!

【留学を考える人へのアドバイス】

- 準備は早めに(ESや受験対策は留学中から意識を!)
- 時間がなくても焦らない(全てを完璧にこなそうとせず強みを活かす)
- 強みは明確に(留学経験をどうアピールするかを整理しておく)

ベストを尽くせるよう、応援しております!



3-4 コラム

◆テーマ2

休学後の官庁訪問

- ・遠回り年数:1年
- ・その期間にやったこと:休学して地元に戻っていました

私は、休学期間を挟んでから就活に参加しました。官庁訪問では、この経験が不利になったと感じたタイミングはなく、むしろほとんど話題にすらなりません。一方で民間就活では、明確なフィードバックがなかったため断定はできませんが、あまり好意的には受け止められていなかったように感じています。それでも最終的には自分の納得のいく進路を選ぶことができ、結果的に「遠回り」も意味のある経験になったと思います。

最も重要なのは、休学の目的は何か、休学期間に何を達成することができたかを明確に伝えられることでしょうか。それができるかどうかで、遠回りした意味があったと言えるかどうかが変わると考えています。

休学したということは、大学卒業・就職という目標に最短距離で到達できなかったことを示しています。まして留学などのように、第三者が聞いてすぐに納得できる理由ではありません。つまりハンデがあるということです(少なくとも私はそう感じています)。ですから、そのマイナスをゼロにし、プラスに変えていくためには、誰もが納得できる理由と休学で得たものを説明できなければなりません。

\内定者インタビュー/ それぞれの 就活体験記

私の場合は、休学したことで地元を離れる覚悟ができ、東京で就活をする決心がついたので、自分の進路・今後の生き方を考える上で必要な時間であったと今は感じています。

長々と書きましたが、私見では、官庁訪問では休学の有無はあまり重要ではなく、農林水産省にマッチする人材か、日本の食と環境を守ることに真剣に向き合おうとしているかのほうがよほど重要であると感じます。休学については減点要素にならない程度に説明できればよく、それよりも農林水産業に対して理解を深め、農林水産省についてもっと知ることに努めたほうが内定に近づくと思います。応援しています!



3-4 コラム

◆テーマ3

「就職留年」の経験

\内定者インタビュー/ それぞれの 就活体験記

就職活動において「就職留年」を選ぶことは、不安を伴う決断だと思います。

しかし、官庁訪問において就職留年は不利に働くことはありませんでした。実際に、私は官庁訪問で経歴について触れられることはなく、就職留年を理由に評価が下がることはなかったと感じています。大切なのは「なぜ就職留年をしたのか」「この1年でどう変わったのか」を自分の言葉で相手が納得できるように説明できるかどうかだと思います。

そのためには、まず1年目の就活でうまくいかなかった原因をきちんと振り返ることが重要です。準備不足や志望動機の浅さなど、人によって理由は様々だと思いますが、そこで得た反省をもとに次の1年をどう過ごすかで結果は大きく変わると思います。

私自身も、留年を決めて以降はそれぞれの企業や省庁の説明会やインターンに積極的に参加し、幅広く官公庁・民間企業の話聞くようにしました。その中で自分のやりたいことが整理され、最終的には農林水産省を志望するようになりました。

また、就活を通じて、できるだけ多くの情報に触れることの重要性を痛感しました。最初からやりたいことが固まっている人でも、なぜその省庁でなければならないのかを考えるために、他省庁や民間企業など他の選択肢を見ておくことは大きな意味がありますし、視野が広がることで志望動機にも深みが増すと思います。

不安の大きい決断も、振り返れば「その1年があったからこそ志望を明確にでき、自信を持って官庁訪問に臨むことができた」と言える、大切な経験となるのですね。

3-4 コラム

◆テーマ4

海外大学からの就活

\内定者インタビュー/ それぞれの 就活体験記

国家公務員志望者の中で海外大出身者は少数派です。仕事に関心があっても、先輩や情報の少なさから壁を感じてしまう海外大生・卒業生の方もいらっしゃると思います。本コラムでは、米国の大学に通う一学生の就活体験をご紹介します。あくまで一例ですが、少しでも参考になりますと幸いです。

※前提：私は小学校から高校まで日本語環境で教育を受けました。第一言語は日本語、第二言語が英語です。現在は米国で4年制のリベラルアーツカレッジで学んでいます。

1. スケジュール

公務員試験は日本国内でしか受けられません。一年の大半を国外で過ごす海外大生には受験自体が難しく、受験時期は悩みの種です。私の大学は9月始まりの2学期制で、春試験・秋試験ともに日程が学期と被っていたため、一学期休学して受験しました。

海外大出身者の中には大学卒業後に春試験や秋試験を受けたり、休学せず大学に通いながら受験する方もいらっしゃいます。留学先の日本からの距離やその他の事情により、選択肢は様々です。試験区分の選択に関しても、春試験と秋試験のどちらが有利かは、海外大生の中でも個人差が大きいと思われます。また、既に大学を卒業している場合、通常より早い時期に入省することもできるそうです。例えば、他省の方ですが、大学を5月に卒業した後、翌年4月まで待たず、同年10月に入省された方もいらっしゃいます。

試験・入省ともに、ご自身にとって最適なタイミングを探してみてください。→

時期	大学関連	公務員就活
2024年9月~12月	3年次修了後、秋学期休学	秋試験 1次試験(9月) 2次試験(11月)
2025年1月~5月	復学、春学期(4年前期)	
2025年6月~8月	夏休み	官庁訪問(6月)
2025年9月~12月	秋学期(4年後期) 卒業予定(12月)	
2026年4月~		入省予定

3-4 コラム

◆テーマ4

海外大学からの就活



2. 大変だったこと

- 情報収集が困難: 所属大学の教職員や学生からは公務員就活に関する情報を得られませんでした。そこで、各省庁の内定者パンフレット等で基礎情報を調べた上で、座談会や個別相談等の採用イベントで分からないことを質問して教えていただきました。
- 言語の切り替えが負担: 英語(大学)と日本語(就活)の言語の切り替えに時間がかかりました。ニュースや本を日本語のものに切り替えたり、日本語で話す機会を増やすために省庁のワークショップに参加したりしました。(大学の英語環境に戻る際も同様に調整が必要でした。)
- 採用イベントに参加しづらい: 時差や学事日程の都合で採用イベントに参加できないことで悩みました。インターンシップにも参加できず、気がかりでした。日本の大学の長期休暇に多くの説明会が開かれた際には、学期中だったため米国から連日深夜にオンライン参加し、体調を崩したりもしました。
- 海外経験の説明が大変: 面接では海外進学や大学生活に関する説明が必要でしたが、初対面の方に分かりやすく伝える方法を考えるのに試行錯誤しました。幸い国際経験を好意的に受け止めていただける面もあり、海外での試練や学びをどう説明できるかが問われると思いました。

3. アドバイス

- 志望省庁の採用担当の方に、早い時期から個別相談に伺うと良いと思います。個別の事情をお伝えしてアドバイスを頂けると大きな助けになります!!
- 海外大から日本の公務員を目指すことは未だ珍しい選択で、国内外双方で周囲の方々の理解を得にくいかもしれません。それでも、国家公務員の仕事に関心をお持ちであれば、価値のある挑戦だと思います。心より応援しています。

4 地方出身者特集

4-1 地方出身者の就活 基本情報 … p60

4-2 官庁訪問 実態調査 … p61

4-3 地方出身者の強み … p63

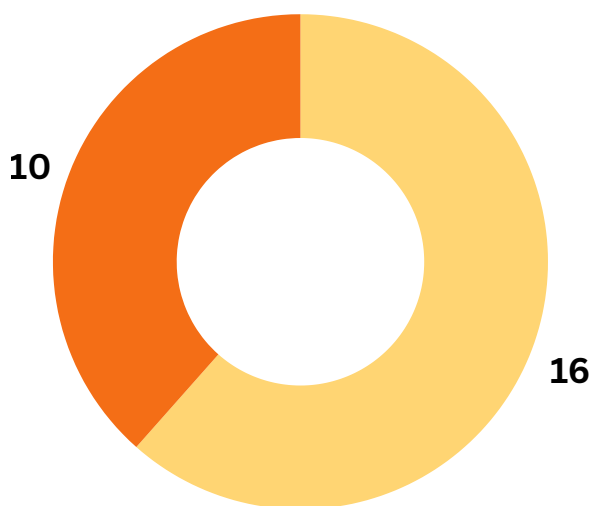
4-1 地方出身者 基本情報

◆ 地方出身者の就活事情

- ここでは、関東圏以外の大学の出身者を「地方出身者」と呼びます。

【地方出身者の割合】

● 関東圏以外 ● 関東圏



今年は、内定者の約40%が、関東圏以外の大学から就活をしていたというデータになりました。

また、関東圏の大学に通いながらも、出身は地方である、という人もたくさんいます。

地方や都市、海外など、様々なバックグラウンドを持つ学生が集まっています。

【説明会でのオンライン併用率】

- 対面と併用（オンライン60%未満）
- ほとんどオンライン（60%~99%）



今年度の内定者は、何らかの機会に対面でイベントに参加したことがあったようです（全てオンライン参加の人はいませんでした）。

農林水産省は地方での対面イベントも積極的に実施してくれます！

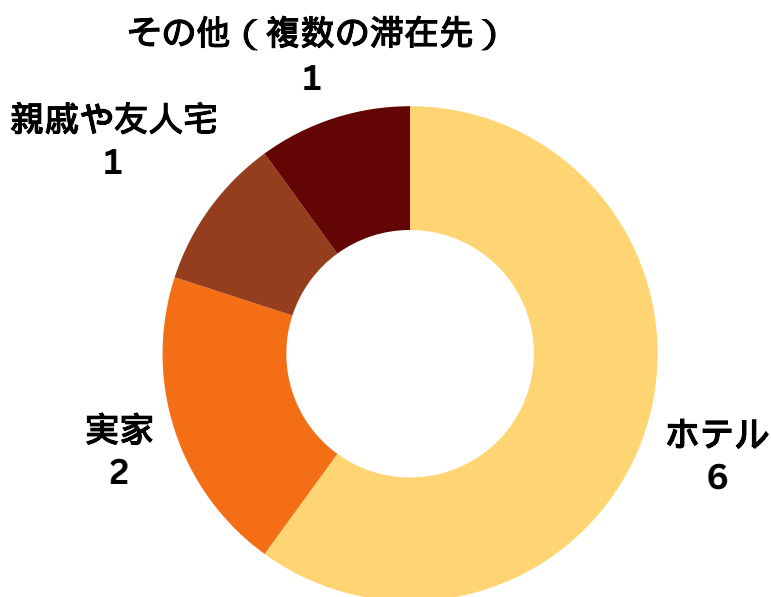
地方出身者はオンラインを活用しながら、地方で開催される対面イベントに足を運び、省庁の情報や雰囲気を感じたり、他の国総志望者とのつながりをつくられたりした人が多いようです。

4-2 官庁訪問 実態調査

◆ 地方出身者の官庁訪問

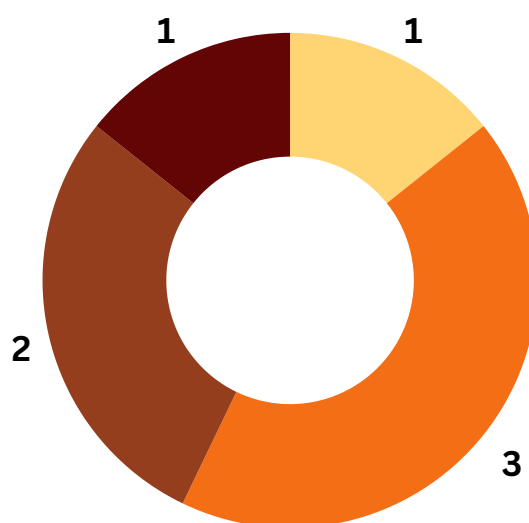
毎年約2週間、霞が関など都内の各庁舎で基本的に「対面実施」される官庁訪問（第1クールはオンライン参加も可）。期間中の滞在先や、かかった費用など、気になるポイントを内定者のアンケートをもとにまとめました！

【官庁訪問中の滞在先】

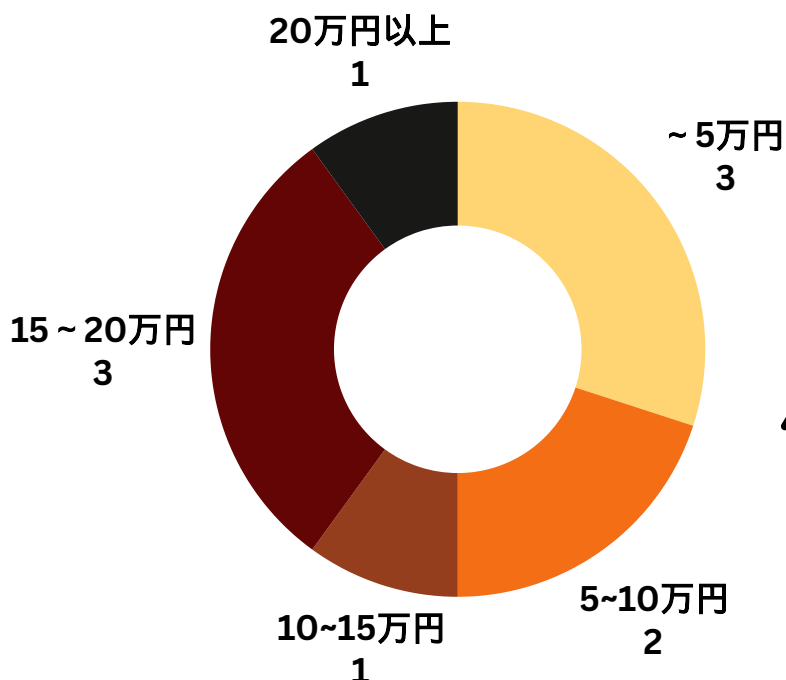


【霞が関駅までの所要時間】

- 徒歩圏内
- 電車で～15分
- 電車で15分～30分
- 電車で30分～45分



【官庁訪問にかかった費用】



半数以上の内定者が滞在先にホテルを選んでいますが、ホテルの値段は予約の時期によって値段が大きく変動するため、早め早めの行動が重要です。また、平日は霞が関へのアクセス重視でホテルに、土日は費用を抑えるために親戚や友人宅に泊まる、という計画を立てた人もいました！

ホテルの場所については、予算との兼ね合いもありますが、官庁訪問中の体力や、電車の遅延などを考えると、できるだけ距離の近さを重視することをおすすめします。

4-2 官庁訪問 実態調査

◆具体的なスケジュール

【大阪在住、ホテル泊の学生の例】

- 交通費：3万円
- ホテル代：14泊で14万円
- その他（食費など）：3万円

宿泊費は1泊1万円前後の人がほとんどでした！交通費は、全員が2～4万円の範囲内でした！

官庁訪問 前日

- 行きは新幹線を利用しました。体力温存のためにも新幹線や飛行機の利用をおすすめします！
- 前日に東京に到着し、前泊しました。第1クールの訪問は8時半開始なので、地方の大学の方は基本的に前泊マストです。

官庁訪問中 の週末

- 1週目の週末は東京散策や国総志望者のご飯に行き情報交換をしました。また、第2クールに向けて自分の思考を整理しました。
- 2週目の週末は実家に帰省しました。
- 他の地方出身者も関東在住の友人に会うなど、上手に気分転換をしていました！

内々定解禁 翌日

- 第4クール（内々定）の翌日に東京を離れました。
- 帰りは高速バスを使用しました。

【第1クールの参加方法】

滞在の負担を考慮し、第1クールはオンラインでの参加も認められています。ただし、今年度の内定者は全員が対面で参加していました。

○対面参加のメリット

- 面接を通して職員の人柄をより感じられる
- その省庁を志望している学生（同期になる可能性のある人）と直接交流できる
- 待合室で情報交換ができる
- 職場を実際に見ることができ、働く環境をイメージしやすい

○オンライン参加のメリット

- 移動や滞在の負担が軽減される
- リラックスして面接に臨める

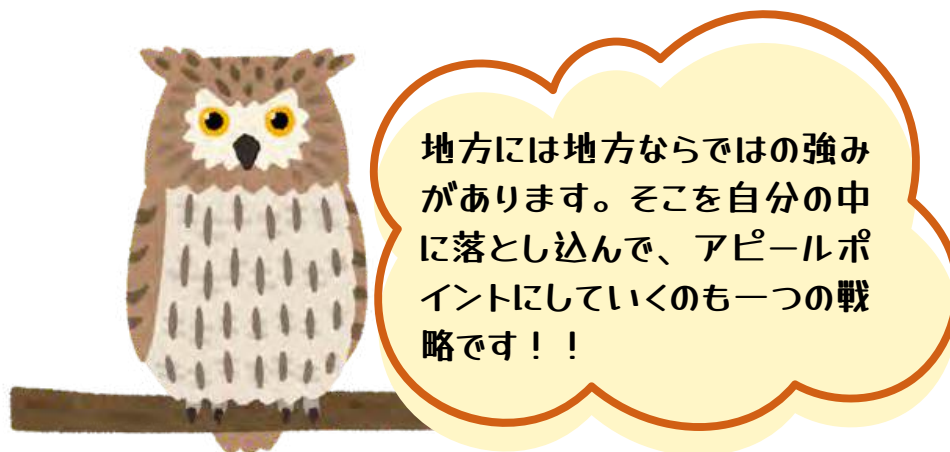
それぞれのメリットやデメリットを考慮した上で、自分に合った参加方法を選びましょう！

4-3 地方出身者の強み

◆就活アドバイス集

【内定者が考える、地方出身者の強み】

- 地方（現場）の課題や実情を肌で感じているため、志望動機と自身の原体験を結び付けやすい。
- 地方の地理や人口構成、生活の空気感に詳しく、地方に住んでいるからこそ見える政策の視点がある。
- 比較的少人数の地方イベントに参加できるので、職員の方と密にコミュニケーションを取れる。
- 同郷の職員に親近感を持ってもらいやすく、アイデンティティとして活かせる。



【地方出身者からの応援メッセージ】

- 地方出身者だから不利になるということはないです！むしろ、さまざまなバックグラウンドを持った人材が求められています。熱意次第だと思うので、自分ならではの強みを見つけて果敢にチャレンジしてほしいと思います！
- 官庁訪問以外一度も東京を訪れませんでした。情報格差などは全く感じませんでした。採用担当の方も積極的に地方に来てくださいますし、むしろ地方出身ということを自分の特徴として押し出して、自信をもって農林水産省を目指してくだされば幸いです。
- 地方出身というのは一つの個性であり、その地域を知っていることは強みになり得ます！人脈と情報を手に入れることが重要なので、周囲のコミュニティを活用してみてください。応援しています！
- 自分の熱意を信じて、つらい時には友達や先輩、家族など迷わず周りの人に頼ってください！みなさんの大きな支えになってくれると思います！

5 内定者紹介

5-1 内定者自己紹介&メッセージ … p65



イニシャルまたはペンネーム
出身大学 / 試験区分

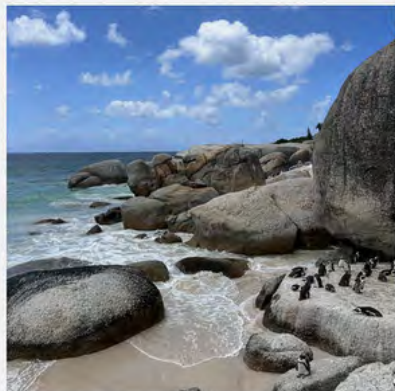
☆自分を食べ物に例えると
(その理由)

○志望動機

○関心のある政策分野

○学生時代の過ごし方

○メッセージ



Y.I. 東京大学文学部
教養区分

☆魚(良い海で良く動き回る
ことでおいしくなれるから。)

○志望動機

- ・ 第一次産業の発展を通して地方活性化に貢献したい。世界の舞台で日本を代表して働きたい。

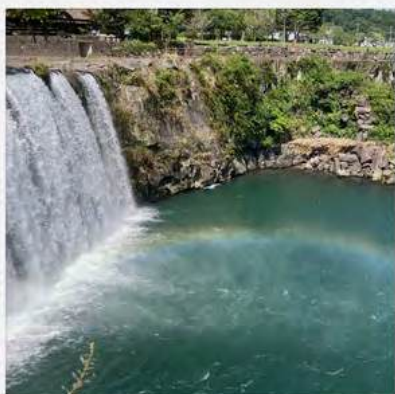
○関心のある政策分野：新規就農支援、国際交渉

○学生時代の過ごし方

- ・ 部活に青春を捧げました。余った時間はとにかく友達とたくさん会うようにしていました。部活を引退した後は、卒論をささっと終わらせて、たくさん旅行に行っていました。

○メッセージ

- ・ まだ右も左もわかりませんが、どちらを向いても優しくアツい先輩方がいるということを官庁訪問までに学びました。少しでも興味のある方はたくさんイベントに参加して、省のこと、職員のことを深く知ってもらい、その上で後輩になってくれたら嬉しいです。お待ちしております。



N.T. 東京大学農学生命
科学研究科/教養区分

☆米(周囲と調和しながら、
全体のバランスを整える存在だから。)

○志望動機

- ・ 生きていく上で不可欠な食を安定的に支えるとともに、基幹産業である農業を通じて農村地域を活性化すること

○関心のある政策分野：日本の食と文化を支える米に関する政策

○学生時代の過ごし方

- ・ 大学時代は軟式野球部に所属しており、春と秋のリーグ戦に向けて練習に励んでいました。また、長期休暇には友人と国内の様々な地域を旅行し、名所を巡ったり、美味しいものを食べたりして過ごしていました。

○メッセージ

- ・ 色々迷うことはあると思いますが、自分の心に素直になることが大事だと思います。自分なりの関心であったり課題意識を大切にしてほしいです。その結果として農林水産省に来てくれたら嬉しいです。頑張ってください！



C.N. 慶應義塾大学
法学部 / 教養区分

☆固ゆで卵(卵が少しずつ固ゆでになっていくように、一步一步着実に成長することができるから。)

○志望動機

- 日本の豊かな食環境を継承したい、農業者が今後も農業を続けられる環境を作りたいと考え志望しました。

○関心のある政策分野

- 農業経営、スマート農業、価格形成、食料安全保障

○学生時代の過ごし方

- 学業に力を入れることを目標にしていたので勉強に多くの時間を割いていました。長期休暇中は家族と旅行に出かけたり、アルバイトをしたり、趣味のギターを弾いたりして過ごしていました。

○メッセージ

- 農林水産省では、生産から消費までの各段階や、国内・海外といった幅広い観点から食・農に関わり、課題解決に向けて尽力できると考えています。農業や農村にルーツのある方もない方も、食・農に関心のある方はぜひ説明会等に足を運んでいただければと思います。ぜひ一緒に活躍しましょう！



A.N. 京都大学農学部
教養区分

☆豆(学部の友達と野菜のコスプレをしたときに豆担当だった。栄養満点。)

○志望動機

- 当たりまえの暮らしを支える第一次産業を、経済面にも環境面でも持続可能な産業へと変えていきたいから。

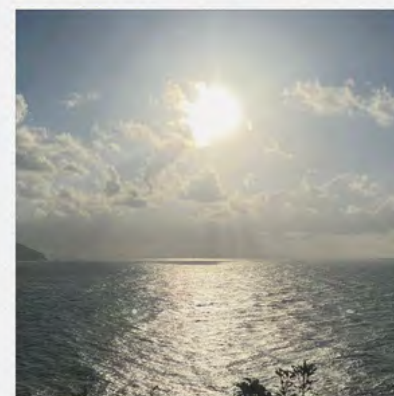
○関心のある政策分野：輸出、環境保全型農業

○学生時代の過ごし方

- 農学部で農業や農業経済に関する勉強をしています。学業以外では、ボランティアガイドサークルに所属し、休みの日は京都に来る外国人を観光案内しています。また、旅行が好きで、国内外の観光地に時間があるときに、いろんな場所に行ってます。

○メッセージ

- 農林水産業は、当たり前にあることが求められる一方で、そのありがたみが実感される機会は少ないかもしれません。しかし、国民への食料安定供給は農林水産省の重要な使命であり、そこに関わりたいと思う人ならどんなバックグラウンドでも活躍できると思います！持続可能な一次産業の実現に向け、私もこれから尽力していきたいです！



M.K. 九州大学法学部
法律区分

☆餅(いろんな味に合う、粘り強い。)

○志望動機

- 地域の魅力の維持向上により誰もが住みたい地域に住める社会を実現したいため。

○関心のある政策分野

- 農業経営、農村振興

○学生時代の過ごし方

- サークルやアルバイト、学業、その他趣味やボランティアなどの課外活動にバランスよく時間を割いた一般的な大学生活でした。

○メッセージ

- 官民問わず多くの方のお話を聞くことで、新たな気づきを得られると思います。時間が許す限り様々な選択肢を検討した上で、悔いのない進路選択ができるよう応援しています！



R.T. 東京大学法学部
教養区分

☆柿(桃栗三年柿八年というが、柿のように遅咲きであると思うから。)

○志望動機

- ・ 中山間地域の農村出身でもともと農業に興味があり、農業を守ることで地域の活性化が図れると考えたから。

○関心のある政策分野

- ・ 稲作の競争力強化、中山間地域における農業の省人化

○学生時代の過ごし方

- ・ 課外活動に打ち込んでいた。いまとなってみればもっと学業に真面目に取り組むべきであったと思いますが…。

○メッセージ

- ・ 大学生活、何かと忙しいと思いますが、大学生の今しかできないこと(授業、課外活動、旅行など)に全力で向き合い、楽しむことが一番だと思います。なにか打ち込めるものがあるとなおよいですね。大学生であることの価値をもっと高められるようにすれば、後悔の無い選択ができるでしょう。



こたつ 東北大学公共政策
大学院 / 院卒行政

☆大豆(飼料にも主食にもなれる大豆のように、様々な環境に順応できるから。)

○志望動機

- ・ 持続可能な地域産業の実現を通じて人々の暮らしと命を守りたいと考えた。

○関心のある政策分野

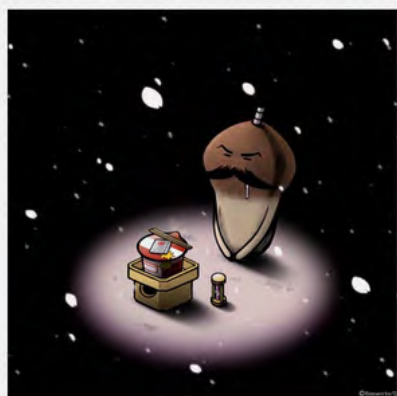
- ・ スマート水産、六次産業化

○学生時代の過ごし方

- ・ M1の時は研究ばかりしていました。休みの日は道の駅を巡ったり旅行が好きです！

○メッセージ

- ・ とにかく準備は前々からして損はありません！試験勉強もそうですが、省庁のイベントへの参加も早い方が良いと思います。時間をかけて、やりたいことは何なのか、自分と合っている省庁はどこなのかを考える時間がとても大切です。かけた時間は後に自信につながると思いますので、少しでも時間を見つけて考えを深めて、官庁訪問に臨んでください。



M.K. 京都大学総合人間
学部 / 教養区分

☆卵(色んな味付けが出来る柔軟性&主役から引き立て役、まとめ役にもなれるから。)

○志望動機

- ・ どんな時でも絶対に食べるものがあり、かつ豊富な選択肢が用意されている環境を守りたいと思いました。

○関心のある政策分野：法人化、地域活性化、消費者政策

○学生時代の過ごし方

- ・ 部活ばかりしていて、体育館とジムと自宅をぐるぐるする日々でした。空き時間には映画を観たり、ゲームをしたりすることが多かったです。もっと言語や資格の勉強、読書をしておけば良かったと思います。

○メッセージ

- ・ 農林水産省は、本当に一人一人違う個性を持った人が集まっていると感じます。自分の想いを伝えることはもちろん、自分なりの人柄を示すことも大事です。だからと言って、気負う必要はありません。真摯な姿勢で向き合っていれば自ずと滲み出てくるものなので、とにかく自分らしさを磨いていって欲しいと思います。



T.S. 東京大学教養学部
教養区分

☆あんぱん(和洋の食が融合したあんぱんのように、周囲から学び吸収しつつ、自分の個性も大切にしたい。)

○志望動機

- 農林水産業と農村の振興を通じて、日本各地の食・景観を守り継承し、地域の自立的な発展を後押ししたい。

○関心のある政策分野

- 農村振興、多様な担い手の確保、輸出産地形成

○学生時代の過ごし方

- 村役場のインターンに参加し、学内の先輩後輩方と一緒に地域づくりの勉強をさせていただきました。サークルでは韓流を踊ったり、学園祭責任者として練習のサポートをしたりしていました。

○メッセージ

- 色々な情報が入ってきて心身が疲れることもあるかもしれませんが、自分なりの志望軸や理想の働き方が見つければ、充実した期間になるのではないかと思います。体調には気をつけて！



H.S. 早稲田大学政治経済
学部 / 教養区分

☆もやし(みんなの味方でありたい一方で、価格転嫁など変革が必要な点が自分と重なるから。)

○志望動機

- 地域固有の資源である農林水産業の振興を通して、地域が持つ魅力を将来に継承したいと考えたため。

○関心のある政策分野：農業経営、農村振興、輸出

○学生時代の過ごし方

- 小学校から続けている陸上競技に打ち込みました。ゼミで自治体訪問や政策提言に取り組んだり、NPO法人で耕作放棄地再生の活動をするなど、主体的に学ぶことを心がけました。

○メッセージ

- 私は「第一次産業だけでいいのか」という不安をずっと抱えていましたが、官庁訪問を通して他産業の知見や当たり前を取り入れていくことの重要さに気づき、幅広いアプローチができると思うに至りました！様々な人の話を聞いた上で、自分で考えることで後悔のない進路選択に繋がると思います！



F.Y. 大阪大学理学部
教養区分

☆マグロ(常に成長の機会を求めて動いており、また、料理の主役としてリーダーシップを発揮するから。)

○志望動機

- 日本の多様で豊かな食文化を、確実に次世代に継承していくため。

○関心のある政策分野

- 人材獲得、新技術・品種開発、国際交渉

○学生時代の過ごし方

- 学業では生物学研究と英語に励み、長期休暇は海外旅行で知らない土地を楽しんでいました。普段は友人とゲームに熱中し、バイトでは塾講師として働いていました。

○メッセージ

- 学生のうちから政策や法律に詳しくなる必要はありません。むしろ、学業やアルバイト、趣味や旅行など、多様な経験を通して幅広い視野を養うことが大切です。そして、そうした様々な背景をもつ皆さんと共に働ける日を心より楽しみにしています。



J.Y. 一橋大学法学部
教養区分

☆雪見大福(外側は柔らかい雰囲気でも、中身はクールに、冷静に物事を捉えがち。)

○志望動機

- ・「食」を通して日本の国際プレゼンスを向上させたいと思った。

○関心のある政策分野：輸出促進、食文化推進、農村振興

○学生時代の過ごし方

- ・ミュージカルサークルで歌って踊って大道具を作りながら、留学のためにイタリア語の勉強をしていました。ローマ留学中は古代遺跡や美術館に入り浸っていました。毎年冬には地元の神社で巫女のアルバイトをして、お守りを売り捌いています。

○メッセージ

- ・私は官庁訪問中も進路に迷うことがありました。しかし、多くの選択肢を吟味したからこそ、最終的には自分にしかない視点で農林水産行政を考えられるようになったと思います。迷うことは悪いことではありません。「悩むほど真剣に考えている証拠だ!」と割り切って、その迷いを大切に、最後は自分を信じて決断してください! 応援しています!



A.I. 大阪大学法学部
教養区分

☆大豆(大豆が加工されて様々な食品になるように、自分の今後の成長の可能性は無限大であると考えているから。)

○志望動機

- ・地方と国の両方が恩恵を受けられる地方創生の方法は農林水産業の活性化だと感じ、農林水産省を志望した。

○関心のある政策分野

- ・農村振興、スマート農業

○学生時代の過ごし方

- ・登山や洞窟探検といったアウトドア活動を主に行っていました。お金がかかる活動だったので、それ以外は基本的にバイトをして過ごしていました。

○メッセージ

- ・現在の農林水産業は課題が山積していますが、考え方を変えれば、それはチャンスでもあると思います。難しく考えすぎずに希望を持って志望してほしいです!



わたし 東京大学文学部
経済区分

☆じゃがいも(いろいろな食べ方があって、それぞれが愛されているから。)

○志望動機

- ・食べ物が好きだから

○関心のある政策分野：食料安全保障

○学生時代の過ごし方

- ・学園祭委員会に所属し、公式キャラクターのグッズを作ったり、当日の委員の食事や宿泊場所の手配などの裏方仕事をしたりしました。日常生活では寿司屋と個別指導でアルバイトをしていました。生き急ぎすぎないことを心がけていました。

○メッセージ

- ・就活で役に立つかどうかは気にせずに、本能で好きと感じられることに精一杯取り組むと良いと思います。その経験で形作られた自分自身を等身大で発揮できれば、道は開かれると思います。



ななな 慶應義塾大学
法学部/教養区分

☆餃子(見た目は汚いけど食べた裏切らないことが、人見知りだけど関わったら裏切らない人の良さと重なる。)

○志望動機

- 子供たちが心豊かに暮らせる社会の実現を目指し、必要なところに必要な食料が届くよう貢献したい。

○関心のある政策分野

- 行政は生産者寄りだと思うので、消費者行政について携わりたい。

○学生時代の過ごし方

- ずっとダンスサークルに熱中していました。公務員試験の勉強は常に行きながら官庁訪問の時期も体を動かしたり、サークルがあった方が効率的に準備ができると思うと考え、両立させました。

○メッセージ

- 農林水産省のイベントは、学生が様々な経験をできるよう考えられたもので、官庁訪問も、学生が本当にやりたいことを見つけるために職員の方がたくさん考えてくれています。そのような農林水産省には一緒に働きたいと思う人がたくさんいて、魅力的だと感じられるので、ぜひ皆さんも目指してみてください！



T.F. 東京大学法学部
教養区分

☆いぶりがっこ(議論の場で、共有認識の確認や新たな視点の投下など、「箸休め」的な働きを意識しているから。)

○志望動機

- 第一次産業を基幹産業とし、過疎地域の創生をすることで地域に根差した人々の思いを継承したい。

○関心のある政策分野

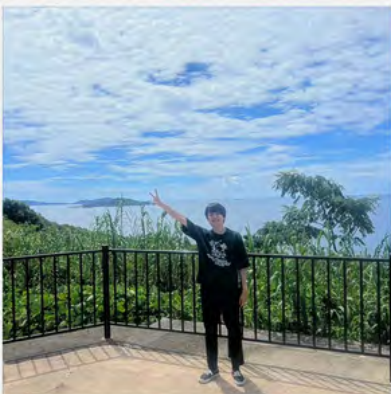
- 農業経営体の拡大、新規就業促進、農村振興、林業

○学生時代の過ごし方

- IT医療ベンチャー企業や北海道内地域おこし協力隊でのインターン。国内旅行もよくしていました！

○メッセージ

- 官庁訪問は「個人の疑問に国策を動かしているような大人がマンツーマンで答えてくれる」というだけでもとんでもない、自分にとってはとても楽しいイベントでした。今はそこまでの志望度ではない方も、ぜひうっすらイベントに出たりしつつ、前向きに訪問を検討されてよいのではないかと、個人的には思います。



S.T. 東京大学大学院 人文社
会系研究科/院卒行政

☆バナナ(マラソン中の即時の補給でも使われるバナナのように、すぐに結果を出せる(ようになりたい)から。)

○志望動機

- 政策という手段を用いて、今後の日本の第一次産業の持続可能性を高めたいと考えたため。

○関心のある政策分野：農村振興、輸出促進、水産資源管理

○学生時代の過ごし方

- 学部・大学院ともに近現代中国史、特に1930～40年代を専門に勉強していました。また、マラソンサークルに参加して、日頃は趣味としてランニングをしつつ、時々各地のマラソン大会に参加していました。

○メッセージ

- 就活中は、さまざまな可能性がある中で、将来について悩むことも多くあるかと思います。私自身、色々悩みつつ就活を進めていましたが、最後には心から納得して進路を決めることができました。今就活に励まれている皆さんが、ここだ！と思える選択ができることを願っています。頑張ってください！



C.Y. 京都大学法学部
教養区分

☆卵(一見堅いように見えるが、中身は柔軟性がある(友人談).)

○志望動機

- 農村の多面的機能の重要性を実感した経験から、一次産業を通じて地方創生に寄与したいと思い志望しました。

○関心のある政策分野：農村振興、農福連携、畜産、海業

○学生時代の過ごし方

- イラストや漫画、ライブ、旅行などの趣味の他、寺社仏閣巡りや万博など関西ならではの体験も楽しめました。前半は農村部の親戚宅で、後半は市内で一人暮らしをしたことで、生活環境の違いから見える世界が広がった気がします。

○メッセージ

- 就活は大変な面もありますが、様々な業界や分野の話を聞ける貴重な機会でもあるので、ぜひ色々な人の話に耳を傾けてみてください。きっと自分の考えの変化や譲れない価値観が見えてきて、進みたい道がはっきりしてくると思います。後悔のない選択ができるように何でも挑戦してみてください。応援しています！



R.S. 東京大学法学部
教養区分

☆福島県産の桃(一見柔らかそうだが、福島の桃は歯応えがあって芯も通っているから。)

○志望動機

- 一次産業の振興を通して、日本の特色ある地方の魅力を残し、さらに発展させていきたいと思ったから。

○関心のある政策分野：農村振興、農林漁業の六次産業化

○学生時代の過ごし方

- 4年間はラグビー部のスタッフとして部活に打ち込んでいました。部活を引退した後の1年間は、ワーキングホリデーをしたり、国内外に旅行に行ったり、ラグビースクールで子供たちにタグラグビーを教えたりしました。

○メッセージ

- 農林水産省は私たちが生きていく上でなくてはならない「食」と「環境」を守る、非常に重要な使命を負っているところが魅力だと思います。また、働く人たちの温かくて柔らかい雰囲気の特徴的だと思います。この使命に共感した人は、絶対に楽しいと思うので、ぜひ農林水産省を目指してみてください！



S.N. 東京大学教養学部
教養区分

☆おでん(いろんな具材の豊かな味が、幅広い関心を持つ自分と重なる気がした。出汁のよさに優しい人でありたいから。)

○志望動機

- 地域の生活基盤としての第一次産業の持続性を高めたいと思った。現場と関わる機会が多いのも魅力的だった。

○関心のある政策分野：水産業振興、価格形成、農福連携

○学生時代の過ごし方

- 人並みに遊び、人並みに真面目に勉強しつつ、たまにフィールドワークや旅行をして、地域をその目で見ていました。あとはほとんど塾で小中学生に勉強を教えていました。

○メッセージ

- 寄り道した方が面白いと思います。いろんな人、物、土地と出会って、第一次産業に限らず、いろんなことを吸収して、考えに考え、迷いに迷ってください。就活は自分のここまでの人生を総決算する良い機会だと思います。自分の人生の軌跡が見えると、自分のやりたいことが輪郭を帯びてきます。とことん自分と向き合ってください！



K.I. 大阪大学法学部
法律区分

☆なめるほど美味くなる飴
(瞬発的ではなく、ある程度
時間をかけて自分の良さを
発揮する方が得意だから。)

○志望動機

- 生命の根幹である食を守り、農林水産業で地方へ人の流れを作り、誰もが安心して暮らせる社会を実現したい。

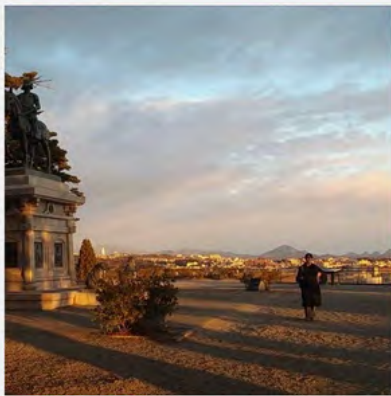
○関心のある政策分野：農村振興、食物の輸出入

○学生時代の過ごし方

- アルバイトとバスケットボール活動に熱中していました。バスケットもやってはいましたが、同期の仲がとても良いのでどちらかというと遊びが中心でした。テスト期間と公務員試験だけは一生懸命勉強していました。

○メッセージ

- 農林水産業は、マイナスをゼロにする力（国民の当たり前を維持する対応）とゼロをプラスにする力（地域の可能性をさらに引き出し、そこで暮らす人たちの誇りや希望を生み出すこと）があると考えています。そんな無限大の可能性を持ち、かつ国民にとって必要不可欠な「食」を支えられる魅力的な省庁です。



M.K. 東北大学経済学部
教養区分

☆キャベツ(何枚も重なる葉のように、状況に応じた柔軟な対応を得意としつつも、芯には強い信念を持っているから。)

○志望動機

- 農山漁村が抱える課題の解決に貢献しながら、地域の活性化や食を支える業務に携わりたいと思ったから。

○関心のある政策分野：定住促進・交流対策、輸出促進

○学生時代の過ごし方

- 震災の経験を伝える活動や、地域コミュニティの形成支援、子どもの居場所づくり支援など、幅広いボランティア活動に取り組んできました。また、アルバイトでは学習塾の講師をしていました。

○メッセージ

- 疲れたときや困難に直面したときは、迷わず友人や家族など周囲の人に頼ってください。私自身も、人に頼ることは得意ではありませんでしたが、周囲の支えがあったからこそ就職活動を乗り越えることができました。気負いすぎず、等身大の自分で頑張ってください。応援しています！



R.T. 早稲田大学政治経済
学部/教養区分

☆カレーライス(複数のスパイスで深みが出るように色々な経験を積み重ねて個性を生み出すから。)

○志望動機

- 農林水産省の持続的な発展と次世代が当たり前に食へアクセスできる環境の創出として農林水産省を志望しました。

○関心のある政策分野

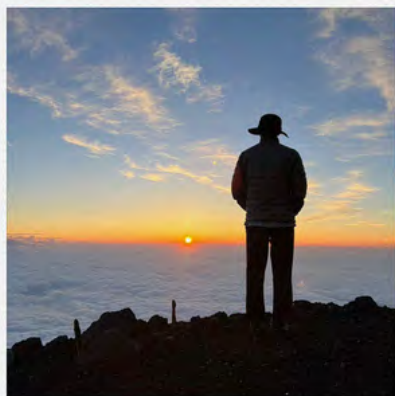
- 担い手政策、輸出促進・国際交渉

○学生時代の過ごし方

- 学園祭実行委員として、20万人を超える来場者の安全を、警備の立場から支える活動に尽力しました。

○メッセージ

- 自分の信念に従って進むことが最善です！頑張ってください！



N.T. 東京大学法学部
教養区分

☆醤油(大半の日本料理で調味料としてハーモニーを生み出している醤油のように、常に相手に応じた接し方ができる。)

○志望動機

- ・食という生活の根幹を支えつつ、特に農村部の地域活性化に取り組み、各地域の特色を未来に残していきたい。

○関心のある政策分野

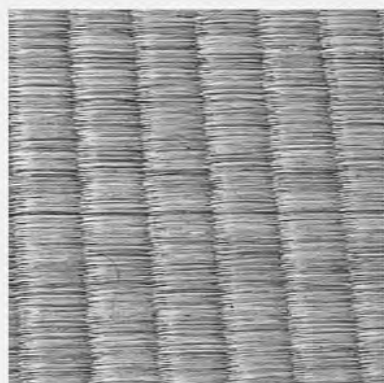
- ・農山漁村の振興、農地政策、ブランド化、輸出促進

○学生時代の過ごし方

- ・学期中は、適度に授業、バイト、遊びを入れつつ、結構なんとなく過ごしていました。長期休暇中は、必ず旅行に行ったり海外プログラムに参加したりして学生の醍醐味を味わいつつ、忙しくしていました。

○メッセージ

- ・農林水産省は、特定の産業をメインの所掌としつつも、「食」という生活に不可欠かつ無限大の価値を生み出せる部分を司る、大変存在意義の大きい省庁だと思っています。また、地方や海外のポストが多いことも個人的にはすごく魅力に感じています。皆さんぜひ一緒に働きましょう！お待ちしております！



畳 海外大(米国)
環境学部/教養区分

☆海苔(好きだから)

○志望動機

- ・農林水産業の環境政策に携わりたい。また、農林水産省の職員の方々が現場を大事にする姿勢に惹かれた。

○関心のある政策分野

- ・農林水産業の環境適応・負荷軽減

○学生時代の過ごし方

- ・大学では学業中心の生活で、ガクチカは主に学内の仕事について話しました。寮生活だったので、人種も国籍も違う人達と集団生活する中で学んだことも多いです。友人と旅行に行ったり、たくさん本を読んだりしたのが楽しい思い出です。

○メッセージ

- ・就職活動は大変で、辛い気持ちになったりすることもあるかと思います。そういう時は無理せず休み、楽しいことや好きなことをする時間をたくさん取ってください！応援しています！



Y.S. 東北大学経済学部
教養区分

☆納豆(どんな環境、状況でも粘り強くがんばってきたため。)

○志望動機

- ・地方独自の強みを活かした食を通して地方創生に貢献したいと感じたため。

○関心のある政策分野

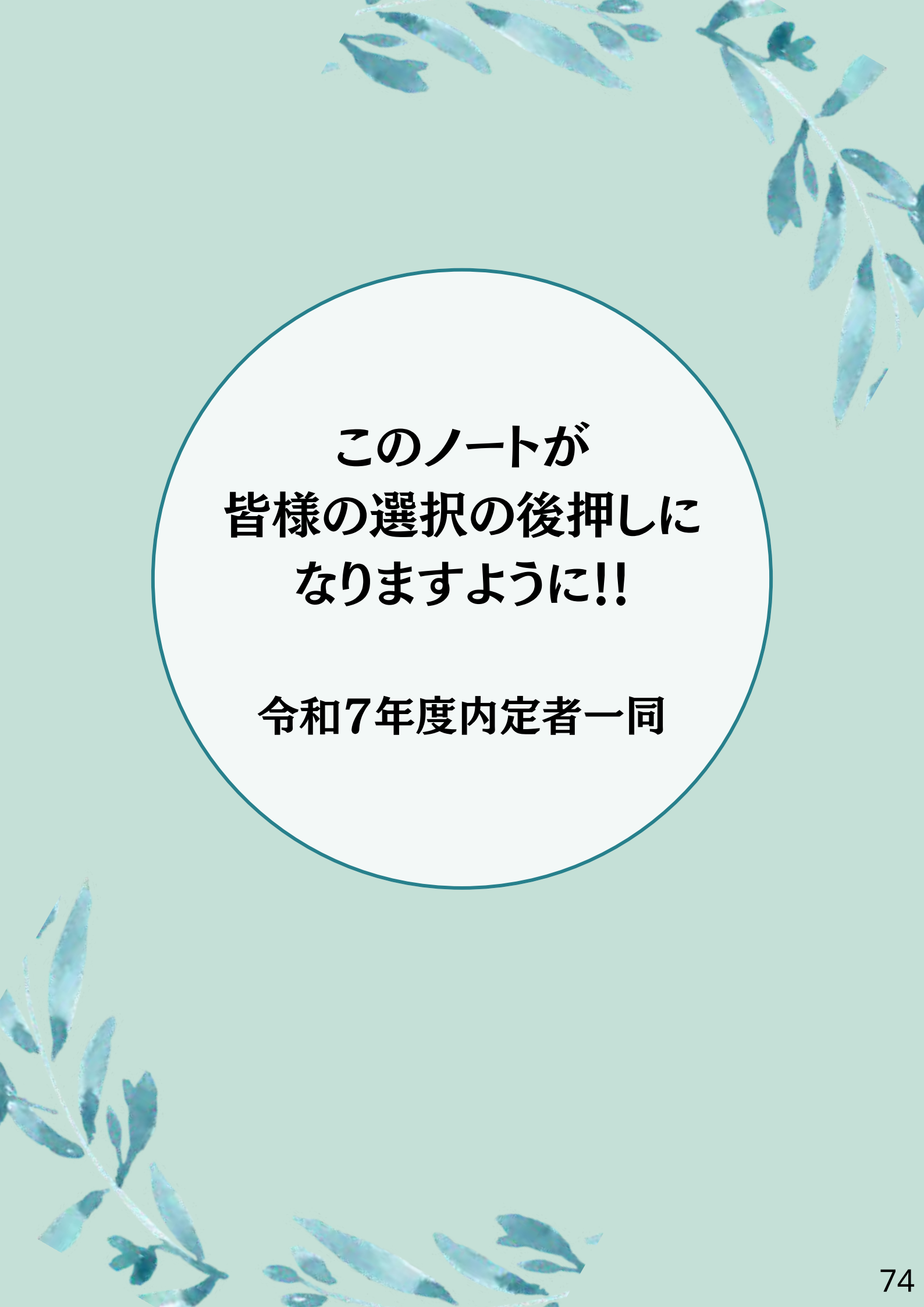
- ・農村振興、農業経営、スマート農業、輸出入

○学生時代の過ごし方

- ・サークル活動と塾講師のアルバイトをしていました。

○メッセージ

- ・一言で「地方創生」といっても色々な切り口があります。自分がどの分野でどの立場で何をしたいのかを考え、納得のいく進路選択ができることを祈っています！



**このノートが
皆様の選択の後押しに
なりますように!!**

令和7年度内定者一同

編集後記

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

本冊子では、私たちがどのような思いで就職活動に取り組み、どのような道のりを経て農林水産省を志すに至ったのかを紹介してきました。うまくいったことばかりではなく、試行錯誤や苦労もありましたが、それぞれの経験が今の自分につながっているのだと感じています。

就職活動は、時に長く大変に思えることもあるかもしれませんが、しかし、その過程で得られる出会いや気づきは、きっと皆さんの財産になるはずです。本冊子が、そんな日々を少しでも前向きに過ごすための参考や励ましとなれば嬉しく思います。

そして、いつかこの農林水産省で、皆さんと共に働ける日を心より楽しみにしています。

令和7年度 農林水産省総合職事務系
内定者ガイドブック編集担当一同

MAFF

Ministry of Agriculture,
Forestry and Fisheries

農林水産省

農林水産省内定者ガイドブック

令和7年度内定者一同